

8

2004年

組合広報

NO. 452

よろこばれ 期待され 魅力ある

 東京都鍍金工業組合
 東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

わたしの意見	広報委員会の運営について	副理事長 姫野 正弘	1
役員会委員会	理事長日誌、組合・関連団体行事予定		2
	工組第 1 回理事会 工組専務理事に青木治郎氏就任		3
	協組第 1 回運営委員会(ミヤマ(株)工場見学)		6
あなたの予定表	9 月の環研・協組集荷日程ほか		8
	訓練校 9 月授業案内、訃報		9
	支部長会		10
	技能検定実技試験実施		21
	めっき対策議連 今後の在り方を話し合う		22
	専務理事歓送迎会		23
	産技研・業種別技術協議会		24
	第 3 回訓練校修了生講演・懇親会の開催について		25
	亜鉛めっき部会講習会開催のお知らせ		26
	亜鉛めっき部会総会		27
ピック・アップ	錆びにくさ 20 倍のめっき技術他		28
	日本鍍金材協組 METEC' 05 単独開催発表		30
	(社)表面技術協会「SURTECH&Coating Japan2005/表面技術博覧会」		31
	常木鍍金工業環境 ISO14001 認証取得		32
	第 38 回上級表面処理技術講座受講生募集		33
支部シリーズ	城北支部の巻(北区名主の滝飛鳥山公園)		34
	十日会 7 月例会 訃報		36
つま恋坂	カレーライス	石川貞行(大田支部)	37
支部通信	城東支部、城南支部、中央支部、足立支部		38
	都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況		42

広報委員会の運営について

副理事長 姫野正弘



東京都鍍金工業組合の皆様、並びに業界関係の皆様方、残暑お見舞い申し上げます。

平素は組合活動に対してご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

組合の夏季恒例の第7回各支部対抗親睦ゴルフ大会(7月4日)は、各支部長さんと実行委員のみなさんのお骨折りを頂いて、また材料・機材メーカーさん、各支部組合員の皆さん参加者116名の協力を頂き盛大に開催することができました。改めて実行委員長として感謝申し上げる次第です。

今年の夏は記録的な猛暑が続き、我々製造業にとっては大変厳しい環境ですが、エアコンやビール等の売行きが大幅増となり、またアテネ五輪と重って薄型テレビ等の家電製品の販売も好調ということで景気には大いにプラスになり、波及効果は大きいといわれています。

さて、担当の広報ですが、東京都鍍金工業組合の「広報誌」作りには、委員長に木村常任理事、副委員長には半田常任理事、及び神谷支部長を中心に各支部より1名ずつ、合計16名にて毎月の委員会において、原稿の校正がなされ、東京組合員全社のほか、全国各地の工業組合、関係官庁、及び関連業界等に1200部配布し、購読して頂いています。その記事内容によっては各方面に大きな影響を与えることを痛感しました。

国会の場でめっき業界の(ほう素、ふっ素素等)の暫定排水基準の見直し問題が取上げられました。そのビデオを見て、めっき業者として大変感動いたしました。国会答弁で中川経済産業大臣が、めっき業がものづくりになくてはならない重要な基幹産業であると発言を頂いたことは、めっき業者にとって非常に勇気付けられるもので、めっき業界が表舞台に出たということで大変有り難く感じました。これは全国のめっき業界のためにやったことで、ある部分では高い評価を頂きましたが、これら一連の動きを広報誌が取上げましたところ、その反響の大きさに戸惑いとともに、責任の重大性を痛感した次第です。広報で活字になるとこうも反響を呼ぶのか、わたしの意見が私でなくなることがあるので、今後の記事掲載に当たっては、広報委員会で各界への影響等も十分に配慮しながら慎重に発行していきたいと考えています。

今後も魅力ある組合広報にさせるべく努力いたします。ご意見、ご要望等ございましたらなんなりとおっしゃってください。宜しく願いいたします。

大村理事長日誌



7 月

1 日(木)工業団体連合会総会

4 日(日)第 7 回親睦ゴルフ大会

5 日(月)環境プロジェクト

6 日(火)青木目黒区長懇談会

7 日(水)健保打合せ、組合顧問会

正副理事長会、理事会

8 日(木)日本電化工業(株)お通夜

12 日(月)東京都土壌汚染処理フォーラム

13 日(火)健保理事会・組合会

21 日(水)東京都、厚生労働省、都中央会労働委員会懇談会

全鍍連近代化促進委員会

都議会自民党めつき議連検討会

22 日(木)都中央会関東甲信越静ブロック会長会

23 日(金)大村鍍金工業所葬儀

24 日(土)大村鍍金工業所葬儀

25 日(日)技能検定実技試験

31 日(土)入江宏氏藍綬褒章受章祝賀会

～組合・関連団体行事予定～

9 月 1 日(水)正副理事長会

9 月 6 日(月)日本硬質クロム工業会三役会・情報委員会

9 月 7 日(火)監事会

9 月 8 日(水)環境委員会

9 月 17 日(金)北海道東北ブロック会議

10 月 5 日(火)広報委員会

全鍍連国際委員会

10 月 6 日(水)全鍍連近代化推進委員会

10 月 7 日(木)環境委員会

10 月 8 日(金)正副理事長会

関東甲信越静ブロック会議

10 月 14 日(木)全鍍連広報委員会

10 月 15 日(金)訓練校工場見学会

東海北陸ブロック会議

葛飾区産業フェア(17 日迄)

10 月 21 日(木)全鍍連技術三役会・めつきコ

ンクール審査委員会

10 月 22 日(金)近畿ブロック会議

10 月 23 日(土)技能教育委員会

第 3 回修了生講演会(京王プラザ)

10 月 28 日(木)全鍍連総務委員会

10 月 29 日(金)中国四国九州ブロック会議

11 月 4 日(木)正副理事長会・理事会

11 月 9 日(火)監事会、表団協セミナー

11 月 25 日(木)全鍍連常任理事会・理事会

全鍍連第 42 回全国大会

12 月 1 日(水)正副理事長会

12 月 7 日(火)広報委員会

12 月 8 日(水)環境委員会

全鍍連環境対策委員会

1 月 7 日(金)新年賀詞交歓会(京王プラザ)

1 月 20 日(木)全鍍連常任理事会・理事会

全鍍連新春賀詞交歓会

工組 第1回 理 事 会

関東甲信越静岡ブロック会議 開催要領承認

と き 平成 16 年 7 月 7 日(水)
午後 6 時 30 分～8 時
ところ めっきセンター4 階会議室
出席者 大村、姫野、由田、川上
間部、八幡、宮澤
木下、柏村、木村、下平
小澤、菊池、安斎、半田
遠藤、新井、小橋、元井
莉宿、中澤、藤田、原
志田、吉川、池谷、篠根
今泉、小嶋、斎藤、永田
細井、神谷、石川、西谷
石田、仲俣、山田、岡本
監 事 田中、海野

はじめに大村理事長は、宮澤裕専務理事が 7 月 31 日付で組合を退職することを報告した。宮澤専務理事は、平成 12 年 8 月 1 日から組合に入って今年 7 月末日まで丸 4 年間組合にお世話になったことのお礼の挨拶をした。また後任として 8 月 1 日付で東京都産業労働局の飯田橋技術専門校から青木治郎氏が組合に入ることが報告された。

親睦ゴルフ大会(7 月 4 日)実行委員長の姫野正弘副理事長は、役員各位の協力により盛大に開催できたことのお礼の挨拶をした。

宮澤専務理事が定足数を満たしていることを報告、大村理事長が議長となり、議事録確認者として、城東支部長の遠藤清孝理事、城西支部長の小橋秀一理事を指名し、議事に入った。

1. 平成 17 年東京都予算及び平成 16 年度 東京都事業への要望事項

宮澤専務理事から説明があり、平成 17 年度東京都予算及び平成 16 年度東京都事業への要望として 7 項目にまとめたが、正副理事長で審議の結果、要望事項は 3 項目にしぼり精査した上、9 月に東京都へ、10 月都議会各会派のヒアリングに提出することを報告した。

①土壌汚染対策に関する事②排水規制に関する事③処理技術の開発・促進に関する事④シアン無害化施設「城南処理センター」運営支援に関する事⑤環境確保条例に関する事⑥技能検定施設の設置及び施設整備に関わる事⑦産業廃棄物の最終処分場確保に関する事。

大村理事長から、例年要望事項として 5 項目位を出していたが、要望が多いとピン트가ぼけることもあり、3 点にしぼることにした、と補足した。

2. 平成 16 年度関東甲信越静岡ブロック会議 開催について

日 時 平成 16 年 10 月 8 日(金)
(受付 12:00～13:00)

場 所 目黒雅叙園

会 費 1 名 15,000 円

参加予定 1 都 10 県計 115 名(東京 55 名)

次 第

ブロック会議(13:00～15:30)

1)開会の挨拶

2)幹事代表挨拶

3)来賓挨拶

4)議事「集中討議」ー業界が直面する課題ー

①全鍍連賦課金の在り方

②関東甲信越静岡ブロックの分割

③土壌汚染対策

記念講演(15:40～16:50)

テーマ：江戸の勇者から学ぶもの

講師：江戸東京博物館 都市歴史研究室
長 小澤弘氏

懇親会(17:00～19:00)

宮澤専務理事から、今年は東京組合が当番幹事で開催する。会議のメインは集中討議で業界が直面する3項目を討議する。役割分担は全鍍連理事が主体となる。隔年開催の組合特別理事会を割愛して理事・監事にはブロック会議懇親会に出席して頂きたいと説明した。

大村理事長が補足し、本日顧問さんと正副理事長が懇談した。都合の悪い方が多く、海老名顧問と草間顧問が出席し、ブロック会議について、いままでのやり方でなく、上記のようにやりたいと説明し、事前にアンケートを取るようになどご指導を頂いた。また、2年に一度理事・監事の慰労を兼ねて特別理事会を行っていたが、それを中止してブロック会議に出席して頂き慰労会を兼ねたい。顧問・相談役会も中止し、ブロック会議に出席して頂きたいと考えている。1時からの会議は基本的に全鍍連理事・委員が中心に出席頂いて、東京組合の理事・監事は5時からの懇親会に出席頂きたい、と説明した。

3. 全鍍連活動報告について

石川理事から説明があり、東京組合と全鍍連の意見の相違があると意見調整の会合をもち、全鍍連上層部から手厳しい意見があった。特に私が広報誌に書いた文書に対してお叱りを受けたが、私が書いたことは間違っていないことを主張した。過去5年間の全鍍連事業についてどの程度組合員が利用したか調べてもらった結果、東京での利用はわずかに数社であった。これから東

京組合として全鍍連に対し小規模事業所に対するメリットをどう出していくかについて要求していかなければいけないと思う。

4. 表彰規程改定に伴う表彰記念品の清算について

宮澤専務理事から、総代会までの記念品を増資出資金に振り替えることが先の理事会で承認され、事務局で出資金の加入日を7月20日として全て清算を終了した。増資出資金総額が5581,000円、出資口数1379口、端数は現金支払いとした。今期から出席率を考慮した改定表彰規程でスタートしていると報告した。

5. 訓練校修了生講演会・懇親会について

隔年に訓練校修了生と派遣企業者を対象に講演会・懇談会を開催している。新しい技術、新しい経営方法を習得して頂き、また、今後の訓練校事業について修了生の立場から提案を頂くとともに同窓生相互の交流を図る目的である。

日 時	平成16年10月23日(土) 12:30～15:30
受 付	12:10 開催 12:30
場 所	新宿・京王プラザホテル
対 象 者	訓練校修了生と派遣企業者
講演時間	1時間(12:40～13:40)
テ ー マ	めっき工場の環境経営への取組
講 師	清川メッキ工業(株) 常務取締役清川卓二氏
懇 談 会	1時間30分(14:00～15:30)
会 費	7,000円

6. 平成17年合同新年会開催について

日 時	平成17年1月7日(金)午後6時 30分～
場 所	新宿・京王プラザホテル本館5階 「エミネンス」

出席者 総勢 300 名(予定)着席ビュッフェ方式

宮澤専務理事から、第 1 回支部長会で検討し、開会時間が問題になり、午後 6 時 30 分とした。出席者は総勢 300 名、着席ビュッフェ(バイキング)方式である。第 2 回支部長会が 8 月 20 日に開かれさらに検討を重ねると報告した。

7. 平成 16 年度全国めっき技術コンクールについて

八幡副理事長から、恒例の全鍍連のめっき技術コンクールは今年度ポスターを作って募集する。例年 180 の応募であるが、今年度は 200 を目標にしており、東京からも多数の参加をお願いしたいと要請した。

8. 第 38 回永年勤続優良従業員表彰について

例年通り 7 月 31 日現在で 3 年、5 年、10 年、15 年、20 年、25 年、30 年勤続者の表彰希望を受付。表彰状は理事長、事業主の連名、平成 16 年 10 月 1 日付(あるいは希望日)である。

9. 組合員異動

脱退 1 社：城西支部 (有)岩本メッキ
変更 1 社：城南支部 (有)三宅鍍金 代表取締役 三宅菊枝→代表取締役 森 廣光
現組合員数:518

10. その他

神谷葛飾支部長から 8 月 20 日の第 2 回支部長会の検討課題等について説明があった。

川上副理事長から、本日全鍍連環境対策委員会があり、ほう素、ふっ素の暫定基準が延長されたが、処理技術が確立されていない現在、みなさんの状況はどうか、ほう

素、ふっ素、亜鉛に関してデータを集めることになり、協力をお願いしたいと要請した。菊池環境委員長からも、全鍍連がひな形を作り全国統一して集計すると補足した。

最後に姫野副理事長が閉会の辞を述べ理事会を終了した。

工業組合専務理事青木治郎氏就任

東京都鍍金工業組合の宮澤裕専務理事が 7 月 31 日で退職後任専務理事として 8 月 1 日付で青木治郎氏(はるお 58)が就任した。



青木氏は昭和 20 年 11 月 27 日生、昭和 43 年 3 月中央大学法学部法律学科卒業、同 4 月に東京都庁に入都、労働経済局、建設局等を経て、平成 3 年 4 月労働経済局中野高等職業技術専門学校教務課長、平成 11 年 6 月産業労働局大田技術専門学校(参事)、平成 13 年 4 月飯田橋技術専門学校を歴任し本年 7 月末に東京都を退職した。

協組 第1回 運営委員会

ミヤマ㈱本社および3工場訪問

と き 平成16年7月23日(金)～24日(土)

参加者 間部健太郎委員長(担当副理事長)江原一美委員、神谷博行委員小原俊幸専務理事、大野克博所長新井健二業務課長

ミヤマ㈱東京営業所:大谷博之所長の案内で、ミヤマ㈱の長野県、新潟県に所在している工場見学を行なった。また、ミヤマ㈱本社において城南処理センターで懸案となっている事項について協議を行なった。

1. 平成16年度事業進捗状況

(1)シアン集荷・収支状況及び処理状況(2)6月末試算表(3)6月末予算執行状況(4)4月19日付事務職員採用について、提出資料を基に説明があり、これを了承した。

2. 固定資産税(償却資産)修正申告

大田都税事務所の指摘により、平成4年度設置資産について修正申告を行なったことが報告され、これを了承した。

3. 隣接地建設計画について

事務局から、過去の経過を含め6月に行なわれた福祉施設建設の公聴会の内容について説明があり、これを了承した。

4. 平成15年度「汚泥中の有価金属回収技術開発調査報告書」

報告書の内容について、抜粋資料を基に

説明があり、これを了承した。

5. 参考資料

- 1) 電気めっき事業者のための土壌汚染対策ガイドライン策定事業報告書
- 2) 土壌汚染問題への対応参考資料URL
- ①マンション事業における土壌汚染対策に関する留意事項
- ②不動産鑑定評価基準
- ③土地取引における土壌汚染問題への対応のあり方に関する報告書
- 3) 工場廃水中のふっ素の除去

6. アンモニア燃焼装置

平成6年度に高度化資金37,904千円を借入、46,000千円で取得したアンモニア燃焼装置について、設置当初に不具合が生じて対策を検討したが、稼動に至らず、小爆発を起こし近隣に被害を及ぼすに至ったことから、休止をしてきたが、再使用の見込が立たないことから、16年度の決算状況を判断し、本年度下期に東京都の承認を受けて、撤去、除却を行ないたいとの説明があり、今後の利用について質疑があり、原案を答申することにした。

7. ミヤマ㈱工場見学及び協議内容

見学参考資料として、ミヤマ㈱会社概要が配布された。

1) シアン系炭酸ソーダ等のシアン含有塩を熱加水分解装置で処理するための技術開発について

ミヤマ㈱から研究開発の進捗状況について説明があり、現在までのシアン汚泥の溶解試験の結果について実験資料を基に報告があった。南 栄嗣代表取締役から、経験に基づいた酒造りににおけるブドウ糖の溶解方法についての示唆があった。

実験結果に基づき、後日、城南処理センターにおいて実務者で設置場所、作業方法など具体的な協議を行い報告・提案を行なうこととした。

2) 「汚泥中の有価金属回収委員会」[(財)造水促進センター]工場見学の件

15 年度報告書の内容を検討しているので、後日、対応窓口等について検討のうえ回答をいただけることになった。

3) 見学工場概要

①社名:ミヤマ株式会社

創立:1974 年 12 月

代表者: 代表取締役社長南 栄嗣

資本金:7,500 万円,

本社所在地:長野市丹波島 1-1-12

役員:10 名,監査役:2 名,従業員:645 名
(2004 年 3 月),年商:121 億円

②中野工場:長野県中野市大字壁田 2400
番地 Tel:0269(23)0511 1990 年操業,敷
地面積:73,203 m²,施設:ロータリーキルン 2 基(96
t/日),排ガス処理施設,破碎施設,油水分離
施設,保管施設,トラックスケール,従業員:63 名(内
運転手:15 名)

③分水工場:新潟県西蒲原郡分水町大字
横田 2791 Tel:0256(64)2441

1974 年(株)新潟県スラッジ処理公社として
発足、経営難により負債を含め引受け
1984 年ミヤマ(株)分水工場として発足、敷
地面積:12,653 m²,施設:コンクリート混練,天日
乾燥,中和,油水分離,破碎処理,混合処理,
従業員:77 名(内輸送:39 名),

④燕工場:新潟県燕市大字小池 3663-1
Tel:0256(63)6751 1987 年操業
敷地面積:22,150 m²,施設:受け入れ槽(25
基),反応層(15 基),その他槽(32 基),脱水機
(4 基),運搬車輛(43 台),従業員:88 名(内輸
送:44 名)

いずれの工場も分析測定機器を備えてお
り、処理実験、工程管理を行なっている。
特に燕工場に特定物質計量センターがあり、
ダイオキシンの分析も行なっており、分
析依頼を受けている。

今後とも良好な提携関係を維持して、組
合事業への協力を要請してゆくことを確
認した。



9月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷	メ モ
1	水	正副理事長会		城東支部	
2	木		大田支部	城北支部	
3	金			葛飾支部	
4	土				
5	日				
6	月		品川支部・大田支部	中央支部	
7	火	監事会		目黒・世田谷地区	
8	水	環境委員会	城南支部	足立支部	
9	木		城西支部		
10	金		城西支部・城北支部	葛飾支部	
11	土				
12	日				
13	月			西部支部	
14	火		中央支部・本所支部		
15	水			品川地区	
16	木		向島支部		
17	金			葛飾支部	北海道東北ブロック会議
18	土				
19	日				
20	月	敬老の日			
21	火		西部支部	向島支部	
22	水			本所支部	
23	木	秋分の日			
24	金		城東支部・葛飾支部	葛飾支部	
25	土				
26	日				
27	月			蒲田・大森地区	
28	火		葛飾支部	城西支部	
29	水				
30	木		足立支部		

(役員会・委員会は変更する場合がありますので、本部からの通知をご確認ください)

9 月 高等職業訓練校授業案内

授業日(火・金) 授業時間(A:14:00～17:00 B:17:00～20:00 C:17:00～21:20)				
日	曜	時	科 目	内 容(予 定)
3	金	A	無電解めっき① (特殊めっき法)	無電解ニッケルめっき液の作製、各種素材による実験、無電解めっきの析出原理。 鍍金組合訓練校 神戸徳蔵
		B	後処理① (めっき法)	クロメートの皮膜構成と処理法、代替クロメート皮膜と処理法、耐食性等。 (資)東亜鍍金工場 川上洋一
7	火	A	無電解めっき② (特殊めっき法)	無電解ニッケルめっき皮膜の性質と特徴、めっき作業、浴管理、合金めっき等 鍍金組合訓練校 神戸徳蔵
		D	労働安全法規① (安全衛生)	労働安全衛生法、有機溶剤中毒と特定化学物質等障害予防規則。 (株)ハイテクノ 鈴木昭一
10	金	A	無電解めっき③ (特殊めっき法)	無電解銅、無電解コバルト、その他無電解めっきの構成、廃液処理等。 鍍金組合訓練校 神戸徳蔵
		D	有機溶剤(医学)② (安全衛生)	有機溶剤による健康障害、その予防処置と応急措置、各論。 岡村勝郎、石川辰雄
14	火	A	すず・接合めっき① (めっき法)	すずの性質、すずめっきの特徴、すずめっき浴の種類と酸性浴等。 石原薬品(株)研究部 辻清尊
		D	有機則(環境)③ (安全衛生)	作業環境の測定評価と改善、局所排気装置、急性中毒の原因と防止対策等。 東京都鍍金工業組合環研 志賀孝作
17	金	A	すず・接合めっき② (めっき法)	アルカリ性浴の特長、浴管理法、すずのウィスカー等。 石原薬品(株)研究部 辻清尊
		D	特定化学物質(医学)④ (安全衛生)	特定化学物質による障害の原因、症状、救急措置と対応策等。 岡村勝郎、石川辰雄
21	火	A	すず・接合めっき③ (めっき法)	はんだめっき浴、鉛レスはんだ浴とそのめっき条件等。 【定期試験②】 石原薬品(株)研究部 辻清尊
		D	特化則(環境)⑤ (安全衛生)	特定化学物質による健康障害と防止、環境管理、局所排気装置と点検等。 東京都鍍金工業組合環研 志賀孝作
24	金	A	合金めっき① (めっき法)	原理、単極電位、合金の析出形態、合金めっき共通の諸特性。 キザイ(株) 丸田正敏
		D	保護具⑥ (安全衛生)	特化物作業及び有機溶剤作業の保護具の構造、規格、使用方法、管理等。 東京都鍍金工業組合環研 長嶋政人
28	火	A	合金めっき② (めっき法)	装飾用合金めっきの浴組成とめっき特性等。 キザイ(株) 丸田正敏
		D	作業環境⑦ (安全衛生)	特化物及び有機溶剤の作業環境の測定、評価と改善。 【特化則等試験】 東京都鍍金工業組合環研 長嶋政人

※聴講料は1科目クーポン券3枚、または7,500円です。

支 部 長 会

東京都鍍金工業組合は6月22日(火)午後6時からめつきセンターで支部長会を開き、各支部の現状と課題、支部長の抱負と本部への期待、本部合同新年会の3つのテーマで各支部長の意見を伺った。各支部の現状では支部員数の減少や役員のなり手がなく困っている現状や今後の支部統合の動き、本部直轄の制度を考えてほしいなどの意見が出された。また、本部の合同新年会に対して趣旨に賛同するとともに、これまでの支部の新年会の在り方の調整が必要であるなどの意見が出された。司会進行は神谷博行広報副委員長である。
(6.22)

支部運営の現状と課題

大村功作理事長

本日はお忙しいなかをご出席頂き感謝申し上げます。6月に入り経済指標が好転していると政府は発表していますが、我々にとってはなかなか肌で感じる事ができないところもあるかと思いますが、良い方向へむかっているということで大いに期待したいと思っております。昨年も支部運営の現状や問題点、支部長の抱負等を聞かせて頂きましたが、今回は加えて来年1月の本部合同新年会について、支部長のみなさんが実行委員として動いて頂きたいとお願いましたが、支部長さんに積極的に動いて頂かないとうまくいかないと思いますので、どうやったらうま



くいくかを含めてご意見を頂きたいと思います。以上のテーマで、みなさんの忌憚のない意見を聞かせて下さい。

神谷博行広報副委員長 私が司会進行を仰せつかりましたのでよろしくお願いします。席順に永田支部長からお願いします。

永田一雄足立支部長

足立支部では毎月1回のペースで支部会等の会合を行っています。現在支部員40社で大体30社くらい集まっていますから割合成績が良い方かなと思っています。新年会、顧問相談役会、下水道局の環境月間講習会、2月には足立区と共催で中小企業近代化講座等を行っています。特別な問題はありません。



石田昌久向島支部長

向島支部は現在50を割って48社になりました。支部員数は少なくなりましたが役員数は減らさずそのまま運営するという事でほぼ毎月役員会を開いています。みんなが何かの役割を持って運営しています。現状は環境問題、排水処理では初歩的なミスから大きな排水事故が出ていますので、排水事故の撲滅ということで10月の環境月間とは別に今年3月に下水道局講習会を下水道局と一緒に行いました。下水道局と相談して初歩的な簡単なことから習得しよう、機器のチェックを行い、半年経ってどうなっているか、10月の全体会で下水道局の方から発表して頂きます。また、10月から3月の半年間でどうなるかチェックすることを、下水道局の協



力を頂いて進めています。環境月間では優良事業所表彰を行います、すでに3年、5年表彰はなく、10年表彰が4～5社残っている状態で、中には20年というところもあります。下水道局にも話をしましたが、今年の全体会のときに一生懸命やられているところを表彰しようと現在準備を進めています。

神谷副委員長 下水道局から20年の表彰を頂くのですか。

石田向島支部長 まだ話は煮つまっていませんが、20年ということだけでなく、一生懸命やられているとか、頑張っているところを下水道局から表彰を頂ければと思っています。あるいは葛飾支部さんのように、支部から下水道局さんに感謝状を贈ることも検討しています。

山田英佐夫本所支部長

本所支部は1つのことを除いて問題や課題はありません。その1つは支部員数が減って現在19社になっています。今後どうしてい



こうかと支部員さんと話をしていますが、以前にも理事会等で話したように、現状ではいくつかの選択肢がありますが、少なくともこのままではいけないということはみなさん分かっています。いくつかの選択肢の中で本部への期待ということで本部直轄も1つの選択肢とさせて頂けると非常にありがたいと思います。これは当支部だけの問題ではないと思いますが、支部員の中にはこれを機会に組合から抜けてしまうと思っている方もいますので、それを防ぐためにもそういう本部制度を考えて頂きたいと思っています。来年1月に本部で合同新年会を計画していますが、これも1つの契機になるのかなと思っています。

本所支部は少人数ということでまとまりが良く、今年の総会で暫定基準が取上げられた参院予算委員会のビデオを上映して、みなさんが感動して、そのとき親睦ゴルフ大会に参

加をお願いしたところ、いままで行かなかった人も参加して頂くことになり、参加率は12支部中トップになります。そういうことで本部直轄制度を是非ご検討をお願いしたいと思っています。

西原敬一西部支部長

西部支部は現在31社で、地域が広いのでAからEまでの5つのブロックに分かれています。ブロック毎の事業所数は3社から9社、ブロックの集まりが出来る所と出来ない所の差が出ております。具体的に問題提議されているわけではありませんがそろそろブロックの再編を考える時期に来ているのではないかという意見があります。



活動として昨年度から今年にかけて「たんぼぼ計画」を進めています。厚生労働省所管の中央災害防止協会が労働安全衛生の指導をしてくれて、色々な補助金があります。それに基づいて色々な活動をしています、これが結構大変な仕事になっています。これには出来るだけ多くの支部員さんに参加して頂きたいのですが、どうしても偏ってしまいます。今年はもう少し多くの支部員さんに参加して頂くよう働きかけています。支部内では特に問題はありませんが、昨年支部役員が代わって若返ったこともありまして、出来るだけ支部員さんとのコミュニケーションを図るために役員会には休まないで出て頂くようお願いしています。

篠根健一城北支部長

城北支部は現在54社、私が支部長になって1社脱退がありましたが、現状は安定しています。私たちが支部の意志を決定する月1回の役員会があります。支部長、副支部長、会計、総務、各部長、本部役員、相談役が集まりますが、支部員54社のうち20数名の方

がご出席を頂いて本部報告をしたり、こういう問題がありますと提議させて頂いて、議論して、決定することもありますし、問題が複雑な場合は改めて執行部で判断させて頂くこともあります。



毎月1回定例ですので役員さんには忙しくて申し訳なく思っていますが、お蔭様でコミュニケーションがとれているので、私としては助かっています。現状は諸先輩がやられた行事を、担当する方の味を出しながら、趣向を変えてやってゆくことと、特に最近環境問題、土壌汚染問題が身に迫っていることがあり、その話がいつも出てきますので、それをどう汲み上げて本部に報告するかを考えています。私は支部長の仕事は何かと自問すると、支部員さんの意見を本部へ持っていくのが仕事だと思っています。支部は4ブロックに分かれています。年2～3回常任理事と私と総務が伺っています。10数名ですから構えずに色々な意見が出てきますので、そういう会合を大切にしながらみなさんの意見を本部へ持っていくことを心がけています。色々やらなければいけないことがあっても思うようにいかないのですが、支部がスムーズに運営出来ていることは大変有り難く思っています。

志田和陽大田支部長

大田支部は72社で以前は廃業等がありましたが、ここ数年は落ち着いています。支部行事としては総会、納涼会、環境月間、忘年会、新年会等ありますが、その他特別に動員をかけるような事業はありません。決められた行事を盛大にやりましょと努力するだけです。支部員さんは組

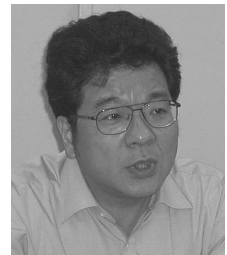


合以外の経営者団体に入っている方もおりますので、勉強会等は個々に行っており、あえて支部が行う必要がないと考えています。本部や行政からの伝達事項がありますが、事業部と地区部長を通じて必ずみなさんに連絡するようにしています。

これまで城南支部、品川支部と城南連合支部を組んでいますが、本所の山田支部長から本部直轄という話がありましたが、昔城南支部は1つの支部で事業所数が多いことから現在の3支部分割されましたが、城南連合支部の役員会では組合員数の減少に伴い再度3支部を統合してはどうかと話をしています。

藤田直人品川支部長

支部行事としては、総会、環境月間、暮れに家族懇親会を毎年行っていますが、そろそろ資金が底を突いてきましたので家族懇親会はどうなるか分かりま



せんが、続けられる限り続けていきたいと考えています。家族懇親会は10年以上続いています。子供を含めて50名以上参加して頂いて、資金的にも大変なので、若干縮小しながら今年も開催する予定です。役員が代わる隔年に顧問相談役会を開いていますが、一昨年顧問の草間さんから場所を提供するからパソコン勉強会をやらないかと言われて、三ツ矢さんの場所を借りて始めました。半年ほど三ツ矢さんで行い、その後支部事務所を使って続けておりますが2年になろうとしています。現在私が中心となって2週間に一遍行っていますが、そのお蔭でいままで総会に出席しなかった人も出てくれるようになりましたが、そろそろ一旦終了してまた新たに始めようかと考えています。支部役員もいまやっている人だけで、その後に続く人がいません。パソコン勉強会も色々な人に支部事業に参加してほしいと思って始めたものです。

中澤敏明城南支部長

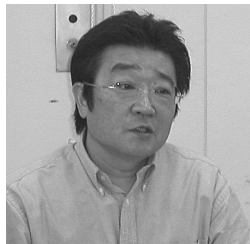
本所さんが19社と言われましたが、城南支部は25社ですが、そのうち地元でめっき業をやられている方は先月1社やめられて



18社になり、何をすることも人が集まりません。講習会や支部会を開いても人が集まらない。情けない話ですが、支部役員会を開いて全員集めても6〜7名ですから、本部役員も兼任しないとなりません。環境月間講習会で11社くらい。今年の総会では一般の支部員の方に無理矢理来て頂いて12社、そんな状態で支部運営というより、何をやっていいのかよく分からない状態です。先程志田大田支部長から昔に戻ろうという話がありましたが、隣接の品川支部さんと城南支部と一緒にならないかという話が出ています。本部への期待ということでは、支部内には波風が立っているわけではありませんが、役員のなり手がなく、本部役員を減らして頂ければと思っています。

小橋秀一城西支部長

元井支部長の後を継いで新支部長になりました。まだ就任したばかりで役員会しか開いていません。支部活動としては例会が年6回



隔月に行い、その間の月に、支部役員だけでなく本部委員、ブロック長を集めて合同役員会を行い、その他に執行部会があります。当支部は多区に跨っており、集まるのが大変です。中心の板橋か池袋のどちらかで開いています。例会のほかには環境月間講習会や顧問相談役会、新年会などもあります。困っているのは、役員が若いものですから、現場に入ったり、納品に出たり、とにかく忙しく、支部役員会でも早い時間に集まることができません。役員会を開いても環境担当が来ないと

環境の話が出来ないとか、総務が来ないと司会が出来ないとか問題がありまして、今回形を変えまして、今まで委員会の形で委員長が中心でしたが、委員長が休むと例えば環境の話はなくなりましたが、今回から各委員会を4人制にして19人全員が役員ということで、役員会には必ず4人の中の1人が出てきて、話が出来るようにしました。委員会は環境、総務、広報の3つがあり、役員会も支部事務局でやっていましたが、堅苦しい雰囲気ではあまり意見が出てきませんので、青年部の真似をして少しお酒が入ると意見が出やすいと、支部が半分負担しますが、活発に意見が出るようになり良い方向かと思っています。そのほか特別に問題ははありません。

遠藤清孝城東支部長

城東支部はこの1年で5社減って41社になりました。以前12支部の中で支部員数の減少率が一番少ないと申し上げましたが、そ



ういうことも言えない状態です。支部活動では、8月を除いて毎月例会があります。昨日も例会があり、本部の合同新年会の話をしました。始める前は30分で終わるかなと思っていましたが、6時半からスタートして1時間15分かかりました。支部員数は41社ですが、小さい会社が多く、年齢的には40歳以上の人が多く、現場、あるいは配達したりで役員のなり手がなく困っています。昨年と同じことを申し上げましたが、解決されないままきています。山田支部長が本部直轄の話をされていましたが、当支部も私の頭の片隅には葛飾さんとの合併があります。葛飾さんのゴルフコンペを合同でやらせて頂いて少しずつ交流を深めながらそういう話が進むといいなと思っています。

神谷博行葛飾支部長

5月に総会が終わってから6月に合同役員

会を開きました。総務ブロック長、顧問相談役まで出席して頂きます。今月は12ブロック長を集めてブロック長会を開きます。今年お世話になります、今年はこういうことを重点的に行いますと飲みながら懇親を深めます。前回弁護士の先生にお願いして、従業員が災害にあったときに社長、課長、部長の責任問題をおもしろおかしく、分かりやすく教えて頂きましたので、再度来月講習会を行います。8月はレクリエーションで昨年は鶴飼い鳥山に行きましたが、今年は埼玉方面でそれに近いものがあるということで、工場見学を兼ねて企画しています。バス代は以前連合共済会から支部に助成金がありましたが、共済会がなくなり、今回は火災共済とあんしん財団の手数料からバス代くらい出せるかなと考えています。



下水道局との懇談会は城東支部さんと一緒に7月15日を予定しています。ほう素ふっ素の暫定基準が50ppmで3年間延長されましたが、この問題について下水道局の方と話し合いたいと考えています。

10月の産業展へ向けて準備を進めていますが、今年はバランスをとって回るヤジロベイを作っています。大きなトンボや葉脈に半田付けをしたり試行錯誤しています。産業展は3日間で、準備から常時20人くらい集まっていますから延べにすると大変な動員数になります。

産業展の後には、環境月間、役員忘年会、新年会、健康管理講習会を行っています。環境月間では当支部に排水処理実験機があり、下水道局から他支部のために実験をしてほしいという依頼があって承諾しました。以上です。

小嶋摂郎中央支部長

現在支部員32社、昨年度に比べ2社減少

しています。ほぼ毎年1社減少しており、一時に比べてかなり減っており、支部内は7ブロックに分かれ、1ブロック4～5社になっています。ブロック長が広報等配布物を配つ



たりしていますので多少効率が悪くなっていると思います。年間行事ですが、例会は環境月間を含めて3回、月1回程度役員会を開き、旅行会、新年会、総会という形ですが、旅行会では支部が多く負担しており経費節減から隔年になっています。今年はやらない予定でその代替え行事を何にするか役員会で詰めています。

問題点としては執行部が若返っていますから、小橋支部長からも話がありましたが、どうしても早い時間に集まるのは難しいことがあります。ただ支部員数は減っていますが、中央支部のみなさんは積極的でいろいろな会合で大体3分の2くらいが参加して頂き活発です。明日も例会があり、城西さんが役員会にアルコールを出すと意見が出やすいという話がありましたが、当支部も講習会のあと缶ビールを出して忌憚のない意見が出ればいいなあと思っています。

支部長の抱負と本部への期待

神谷広報副委員長 次に支部長の抱負と本部への期待ということでお願いします。

永田足立支部長 足立支部はここ10数年足立工業連合会に加盟しており、そのため理事会等で組合本部へ行くより区役所へ行く用事が圧倒的に多くなっています。それも昼間の用事で、工業会に関連する区の行事に引っ張り出されて大変なんです。ただ今回、東京都の環境確保条例で薬品使用量等の報告が義務付けられましたが、これが区の管轄であり、

区の対応が柔軟です。工業会の管轄が区の産業振興課で、何か問題が起きると必ず我々を通してくれます。我々の立場を配慮してくれますので、面倒くさい仕事だなと思っても、支部員のことを考えるしかたないなと思っています。

石田向島支部長 私が支部長になり、執行部も新しい方が半分、先輩方が半分づつになり、昨年今年とやっていますが、来年はいよいよ全て若返ることになるということで、青年部とうまく連携をとってよりよい運営を行っていきたいと考えています。今後どのように運営していけばよいか、実験的にいろいろなことを模索、実行していこうと考えています。本部への期待では、役員会で参院予算委員会のビデオを観て感動された方が多く、それなら是非協力したいという機運も高まっています。組合に入っていて良かったという感じが出ており、そうした運動を推進して頂きたいと思います。

山田本所支部長 さきほどお話したように、本部直轄という仕組みを考えて頂きたいということです。

大村理事長 公害防止協同組合には各支部に属していない企業の本部支部がありますので、そういう形にすると各支部と同じような扱いが出来ると思います。これから検討していきたいと思います。

西原西部支部長 西部支部は23区と一線を引かれています。私が西部支部を代表して色々なところに参加させて頂いていますが、例えば環境委員会に参加しても、どうしても23区の話です。各支部とも下水道局と密接に連絡を取り合っていますが、西部は各市町村で管理されていますから、下水道との話し合いは全くありません。上下水道料金の減免措置も各市町村によって格差がありますので、支部としても修正して頂くよう考えておりますが、本部からもフォローして頂ければ有り難いと思っています。

篠根城北支部長 各支部長の話を知っていると城北支部は幸せだなと感じています。地域が荒川と北区の一部でまとまっており、支部事業所数も54ありますし、これから役員になって頂く方もおります。私の任期も後1年を切りましたが、抱負としては各行事を有意義に進めていく、自分のカラーを出せばいいかなと思っています。とにかく支部員さんの意見を本部へもっていくことは就任以来変わりません。本部への期待としては参院予算委員会のビデオを総会で視聴して支部員さんから喜ばれ、私のところに本部の関係者にお礼を言ってくださいと言われた。行政の方針を代えることは大変なことだとみなさん承知していますので、本部も一生懸命やっているということで、本部の点数も上り、私としても支部内で動きやすくなったことがあります。本部の環境行政に対する活動が評価されますので、環境プロジェクトを含めてどのように成長させていくか、コスト面も含めて検討してもよいという意見が出ています。土壤汚染問題もそうですが、新しい環境規制が我々業界の有利になるよう、理路整然と道理にかなった進め方をされていくのであれば多少の負担はみなさん理解して頂けると思います。また、仮にほう素ふっ素が規制されたらどうなっていたか、組合活動でこれだけメリットがあったこと、手柄話になるかもしれませんが、そうしたPRの仕方も上手にさせて頂きたいと思います。また、役員会で各事業所のほう素ふっ素の下水道局の分析値を持っていますが、各事業所からデータを頂くことにしましたので、本部から要請があれば提供しようと考えています。支部員さんも自分たちで出来ることはやろうという機運が高まっています。

志田大田支部長 大田支部は単一区で恵まれているかもしれませんが。話は戻りますが、当支部は勉強会や講習会は他団体に任せて支部としては行っていないと申し上げましたが、

みなさんの話を伺うとやらなければいけないのかと反省しています。私は2期3年目ですが、少し考え直していきたいと思っています。組合本部への期待ですが、政界への働きかけが功を奏して有益な活動をされていると感謝しています。

藤田品川支部長 志田支部長が怠慢みたいな自己反省をされていましたが、私はもっと怠慢でやりにくいのですが、役員会は本部の重要な理事会、総代会などあったときに開催する形で年5～6回開いていますが、役員が集まるだけなんです。一般の組合員が出てくるのは環境月間や家族懇親会しかありません。環境月間には割合多く出て頂きますが、総会は役員くらいで、パソコン勉強会も一般の方に出て頂きたいということで始めたものです。少しでも一般の方の参加を増やしたいということで旅行会、飲み会なりを開いて集める形にしたいと思っています。

支部内のブロックはかつて東西南北に分かれていましたが、西のブロックは飲み会が好きで良く開いてうまくいっていますが、東は私のところで始終集まりがありました。南が出てこないで一緒にして何とか出てくるようにしたいと1つのブロックにしたのですが、なかなかうまくいかず、東ブロックをもう少し開くようにして、支部全体の活性化につなげていきたいと思っています。そうしないと私がいつまでも支部長をしていなければなりません。

中澤城南支部長 総会に一般の組合員の方が出て頂いて、ビデオを観て組合が活発に活動しているという印象を受けましたが、本部への期待では、私たち弱小支部は本部へ出る人がいないわけで、支部役員が本部役員を兼任しています。60過ぎの人ばかりで、青年部は活発に動いていますが、城南支部は3人しかいませんので、もう少し本部役員委員数を支部の事情を考慮して頂きたいと思います。

小橋城西支部長 年々例会に参加してくれる

方が減って、いま22～23名です。支部員40数社ありますから30社以上集まって頂いて連絡事項や組合活動の理解を頂きたいのですが、とにかく役員は支部運営や本部のことを分かっていますが、一般の組合員の方はあまり理解して頂けません。今度の例会では参院予算委員会のビデオを観て頂いて少しでも本部がこういう活動をして、みなさんのためになっていることをご理解頂きたいと思っています。

遠藤城東支部長 国会でめっき業界の暫定基準の問題が取上げられたことは素晴らしいことで、私はまさに快挙であると思っています。篠根支部長が環境プロジェクトを成長させていきたいという話がありましたが、いま亜鉛めっき業界は6価クロメートから3価転換への急速な動きがあります。環境プロジェクトはこれまで基準値を緩やかにして下さい、暫定基準を延長して下さいと運動してきましたが、6価クロメートを3価にする法律を作して下さいという運動をしてもいいのではないかと思います。3価はコスト面の問題はありますが、技術的には大分確立されてきていますので、遅かれ早かれそういう流れになってくると思います。逆に我々が法律を作して下さいと訴えることが、我々がこれだけ環境問題と真剣に取り組んでいるPRになるのではないかと思います。

もう1つ、公防協組はシアンを使う組合員が安心して事業活動が行っていただけるようにというのが理念ですが、ところが当社はシアンを安心して使っていない状態にあります。公防協組で受入れてもらえるのは液体の上澄みだけで、スラリー状になると受入れてくれない。当社は炭酸ソーダのようなものが多く受入れてもらえず困っています。液体だけで底のスラリー状も持っていけないのであれば片手落ちだと思います。何とか安心して企業経営ができるような受入体制にしていきたいのが願いです。

神谷葛飾支部長 私は支部員みなさんに分かりやすく説明が出来る支部長を心がけていますが、みなさんの要望があればやろうと毎月1回三役会を開いています。本部でほう素ふっ素の処理技術講習会を4回行いましたが、この薬品を用いて処理実験を行いました。メーカーのデータと現実とは違うなと思いました。一度支部員さんを集めて説明会を開催してもいいかなと思っています。財政が厳しいことから色々経費節減を図っていますが、稼ぐことも考えようと、産業展も費用をかけて作品を作りますが、それ以上に稼ごうと進めています。

本部の環境プロジェクトには当支部から石川さん、菊池さんがメンバーとなっていますが、ほう素ふっ素の暫定基準がありますが、この規制自体をなくす方法はないかを考えています。ほう素は海域が230ppmですが、我々葛飾や足立支部は河川で10ppm、全支部でやるより2〜3支部と話し合いながら、対応を模索していきたいと思っています。支部内でも300、400人を集めてデモをやろうという人もいます。

小嶋中央支部長 昨年はなるべく支部員みなさんに多く集まって頂いて支部内のコミュニケーションを良くして、色々な問題を乗り切っていこうという方針で親睦行事中心にやってきましたが、今年はもう少し技術的なこと、工場見学が出来ればやりたいと考えています。支部から本部への期待ではありませんが、遠藤支部長から話がありました3価クロメートの問題は過渡期というか、技術的には安定していると聞きますが、混沌とした状態になっています。そういう中で当組合が環境対策として3価クロメートを推進しているということでイメージアップになるようなこと、ホームページでもPRして業界のイメージアップになることをやって頂ければと思います。

神谷広報副委員長 各支部さんとも支部員数が減少して資金繰りに苦労されていると思い

ます。色々な支部活動が行われていますが、大きくは支部を統合しようという動きもありますし、今後折を見てみなさんと話し合っていきたいと思います。

本部合同新年会

(案:1月7日(金)京王プラザ)について

永田足立支部長 私は本部合同新年会に賛成です。毎年新年会時期になりますと、隣接支部とのお付き合いが多くあります。今年は3つ重なり助かりましたが、体力的にも、支部の財政的にも大変なので、以前から本部賀詞交歓会で顔を合わせたらいいんじゃないかと思っていました。隣接支部から7名お越し頂いたら我々からも7名うかがわないといけないということを延々とやってきました。それをやめて合同新年会で顔を合わせようと、我々も支部員さんに多数参加してもらえよう呼びかけますし、従来の慣習をやめて、なるべく経費がかからないよう、1回で済むようにして頂きたい。これは私の意見ですが、支部役員も同じような意見です。ただ開催時期や場所など細かいことはこれから詰めて頂きたいと思います。

石田向島支部長 合同新年会に動員するに当たり、はっきりした趣旨をPRして頂きたいと思います。いま向島は例会を行っていませんので、全体で会えるのは新年会と環境月間の全体会しかありません。新年会では行政との懇談もありますので、合同新年会を定期的に行うことになると、新年会の代わりに行政と支部員がかかわれるような行事を考えないといけないかなと思います。私も各支部さんの新年会にいかせて頂いていますが、永田支部長のご指摘ももっともですが、逆に他支部さんはこうやっているのかと参考にもなり、刺激にもなります。何でも経費節約すると何もなくなってしまう気がして何のための支部なのかということもあります。節約はい

いんですが、我々としては事業内容を変えていかないといけないかなと思います。

大村理事長 いま趣旨の質問がありましたので説明しますが、一番の目的は、組合のPRです。めっき業界は大きく、大変な力があることを一般に示して、組合の請願要望運動等を有利に展開したいという狙いです。組合が色々な活動を行う上で、組合はこれだけ力があるということを示すのが最大の目的で、そうした効果が上がるか上がらないかは組合員の動員数によると思います。もう1つ、これまで正副理事長が各支部新年会にうかがっています。各支部においてはお互いと呼んだり呼ばれたり、プライベートであればよいのですが、執行部としては1回でやめようと考えています。

山田本所支部長 理事会でも理事長からそのような話がありましたので、総会や、顧問相談役会とか色々な会合でそういう話をして、中には支部の新年会もやるべきだという意見もありましたが、現状は支部の新年会をやめて本部の合同新年会に集約する方向です。支部行事は総会のあと環境月間講習会、忘年会、新年会と年末にかけて集中していますので、新年会をやめてその予算が余りますので、本部合同新年会出席者には支部としても補助するつもりですが、支部行事として環境月間までの間に懇親を目的とした会、例えば、旅行会も出来ますので検討しています。新年会の予算を他の行事に回して年間、適当な周期で支部員が集まれるような行事を考えていくつもりです。理事長から説明のあった趣旨は総会等でも話をしましたが、具体的にどのくらい参加して頂けるかは多分集まる時間がキーになると思います。

神谷広報副委員長 地域的に我々葛飾が一番遠く、新宿まで最低1時間はかかります。

大村理事長 取り敢えず5時半を設定していますが、これがだめなら改めて検討して下さい。

西原西部支部長 まだ支部では話をしていませんので支部としてどう対応するか決めていません。ただ個人的に意見を聞いてみますと消極的です。西部は中央線一本で来られるといっても参加率は低いのではないかという意見が多くなっています。集合時間もそうですが、曜日が問題になります。西部支部は月曜から金曜ではまず出られないということで、新年会、総会は土曜日に行っています。

篠根城北支部長 組合のPRという政治的な目的ですが、私自身もその趣旨ではどうもはつきりしないと思います。これにより各支部の新年会の在り方が変わるわけです。当支部は城西さん、中央さん、足立さんと親しくさせて頂いており、関係支部でコンセンサスが取れていればいいのですが、まだとれていない段階で組合PRのため、執行部の出席が大変だからと話をしても支部員さんの理解は難しいのではないかと思います。各支部新年会の在り方の調整が出来ないまま決まってしまうことに役員さんの中にもおかしいという意見もありました。中には役員会で一度やってみたらどうか、毎年行うのかという質問がありましたが、私も具体的に説明していませんが、その辺の調整がついたら合同部会、4ブロックへ行って、趣旨をしっかりと説明して、出来るだけ出席するようお願いします。

志田大田支部長 組合PRということで業界全体の利益を考えると有効であり、私個人としては賛成です。あと時間の問題ですが、他の経済団体のように昼間に行うといいんですが、それでは鍍金組合は動員がかけられない。当支部も役員以外は知りませんが、内容が決まれば成功させるよう前向きな考え方でいます。あと地元単独と3支部連合の新年会がありますので、その辺をどう調整していくかです。

藤田品川支部長 合同新年会は意義あることだと思いますが、問題は日時です。総代会を含めて土曜日を使ってほしいと思います。そ

れが出来なければ開会時間を6時半とか遅くして頂きたいと思います。

中澤城南支部長 私どもも総会で合同新年会の趣旨を説明しました。国会のビデオをみたあとですから趣旨はよく理解して頂きました。まだ出欠をとる段階ではありませんが支部としてフォローしてなるべく人を集めたいと考えています。先週、火災共済の会合で三支部長で話し合い、毎年三支部連合で熱海か都内で新年会を行ってきましたが、連合の新年会をやめて本部の合同新年会に動員をかけることにしました。連合の予算もあり、その中から合同新年会の参加者には補助しようと話し合っています。山田支部長から話があったように連合の会合がなくなりますので、どこかで1回行事を入れたいと考えています。

小橋城西支部長 役員会で理事長から説明のあった趣旨を説明し、役員さんには理解してもらいましたが、当支部は他支部との交流は新年会くらいしかなく、それが出来なくなるというのが1つと、本部主催というということで本部の負担があるのかお聞きしたい。とにかくこれ一本にして出来るだけ多くの参加者を目標にして参加しようということは決まりました。ただ例会にかけていないので、それからになります。

大村理事長 本部負担は4割強となります。今回新宿の京王プラザが会場ですが、立食で300名入れる会場は沢山ありますが、椅子席で300名は少ない。めつきセンター近くの東京ガーデンパレスもこれだけ大勢入れる会場はなく、都内でも限られており、早目に会場を抑えておかねばなりません。

遠藤城東支部長 組合ではこれまで組合員が一堂に会する機会がなかったと思います。平成元年の百周年記念以来だと思うが、それだけに大きな意義があると思います。ただ城東支部の事情がありまして、すでに新年会場の予約をとっており、本部の合同新年会の4日後に支部の新年会があります。昨日の例会で

も話し合いましたが結論は出ず、本部の合同新年会には役員や諸先輩にお願いはしますが、全員への積極的な呼びかけは難しいかなと思っています。ところで本部では毎年の開催を考えているのですか。

大村理事長 まだそういうところまで考えていません。当然うまくいけば毎年という話が出るかもしれませんが、いまいちとか、問題があれば考えるでしょうが、終わった後反省会を兼ねて支部長さんで検討して頂きたい。

神谷葛飾支部長 当支部も役員会には話をしましたが、5時半では4時に仕事を終えないといけない。三役でも半数はそんな時間に新宿へいけないと言っています。それを支部員のみなさんに説明するのは大変なことです。また、人数を集めるなら新年会でなくとも、ある問題に対する総決起集会でもいいんじゃないか、土日従業員まで集めてデモや大会を行えばいいんじゃないかという意見もありました。ほう素ふっ素の規制をなくすために何百人も集めないと国は納得してくれないという趣旨でやらないと何百人も集めるのは難しいのではないかという話もありました。もう一度目的や時間、場所について検討されたらと思います。

小嶋中央支部長 私個人として合同新年会の趣旨に賛成で、役員会にも話して内諾を得ていますが、一般の支部員さんには総会の席上、日程の話しかしていませんので詳細については例会で説明します。支部執行部には極力参加するように、また先輩方にも出て頂くよう声をかけていきますが、費用部分についても支部からみなさんが参加しやすい形をとるつもりです。ただ場所や時間の問題があります。地元では気心の知れた仲間が集まるのに比べ、大人数になると敷居も高くなり、役員でない一般の支部員さんには行きづらいと思います。支部としては声はかけますが、それほど集まらないかもしれません。来て良かった、来年もきたいと思われるような企画が必要だと思

います。

神谷広報副委員長 一通りみなさんからご意見を頂きましたが、現在1月7日金曜日午後5時半という案になっていますが、簡単に希望の曜日と時間の挙手をお願いします。

金曜：8名 午後5時30分：0名

土曜：4名 午後6時：3名

日曜：0名 午後6時30分：9名

金曜の午後6時30分が一番多くなっています。

姫野正弘副理事長

神谷広報副委員長の名司会のもの各支部長から忌憚のないご意見を頂きまして感謝申し上げます。3時間にわたって各支部の現状と支部長の抱負、組合本部に対する期待について意見発表して頂きました。ご意見を参考に今後の組合運営に役立てていきたいと思います。特に各支部さんとも役員のなり手がないこと、年代的にも過渡期にあるのかと感じられますが、



支部員さんを如何に支部活動に引き入れるかに苦勞されている。いつの時代もそうですが、とにかく役員のなり手がないこと、自分たちのための組合であり、自分たちでどんな形でも組合をよくしていこうということが大事だと思います。また、組合員数の減少から、支部の合併、本部直轄という話がありましたが、今後執行部としても取上げていかなければならない課題であると感じました。最後に合同新年会について、各支部長さんが実行委員としてやって頂く以外に手がないと理事長も支部長に下駄を預ける形でお願いしたのだと思いますが、各支部の事情があろうかと思いますが、とにかくやってみないと分からないわけですから、理事長がやるという方針ですから、一致団結して組合の組織力を示したいと思います。また遠藤支部長が言われるように東京組合が一堂に会することは百周年以来15年ないわけですから、一堂に会して活力のあるところをアピールしていくことは大きな意義のあることだと思いますので、ご協力をお願いします。以上をもって支部長座談会を終了させていただきます。



技能検定実技試験実施

東京都鍍金工業組合技能教育委員会(志田和陽委員長)は、東京都職業能力開発協会の委託を受けて7月24(土)、25(日)の両日、めっきセンター地階会場で平成16年度電気めっき技能検定1級、2級、3級の実技試験を実施した。

受検者は1級組合員2名、員外4名の計6名、2級組合員42名、員外18名の計60名、3級員外2名の合計68名(内欠席2級6名)で、昨年度より受検者は10名多くなっている。

技能教育委員会では試験に先立って、6月7日に検定委員、補佐委員の委嘱、水準会議、実施要領をはじめ、総務、誘導、試料、分析、ニッケル・クロム、亜鉛・クロメート、分析、厚み測定、判定等の業務分担を確認。6月28日に試験場設営、7月3日受検者に対する課題説明、7月14日リハーサル及び最終チェックなど準備を経て試験運営に臨んだ。

試験は、まず2階待合室で受検者は着替えなどして試験開始時間まで待機、その間誘導係から注意事項の説明を受けて、9時から3人1組で順次試験に入った。

試験内容は、1級はニッケル・クロム、亜鉛・クロメート、分析(不調液調整)、2級はニッケル・クロム、亜鉛・クロメート、分析(中和滴定)、3級はニッケルめっきである。

試験日には中央職業能力開発協会、東京都職業能力開発協会係官の視察、組合本部からは大村理事長はじめ役員が陣中見舞いに訪れ、試験運営に当たる各委員を激励した。



(試験まで待機)



(めっき)



(分析)



めっき対策議連 今後の在り方を話し合う

東京都鍍金工業組合正副理事長は 7 月 21 日(水)午後 3 時 30 分から都議会自民党役員室で「都議会自民党めっき対策議員連盟」の今後の在り方について、都議会自民党の大西英男幹事長はじめ議連構成議員各位と話し合った。

はじめに大村功作理事長は「昭和 51 年にめっき議連が発足して 30 年近く続いているが、過日自民党の樺山政調会長からもっと動きやすい形でめっき議連を運営してはどうかという話を頂き、我々としても親しくお付き合いをさせて頂いているので、今後の在り方について先生方のご意見を頂きたく大西幹事長に相談したところ、貴重な時間を割いてこの場を設定して頂き感謝申し上げます」と挨拶した。

大西英男幹事長は「いま日本の工業界が抱えている構造的な課題を含めてめっき業界が大変な状況にあることは十分に承知している。めっき業界は中小零細企業として地域経済とも密接な関係を持っている。私ども自民党にとっても、組合から色々なご尽力を頂いてきた歴史があり、私ども都議会自民党として、みなさんの頼りになるめっき議連を拡充強化していかなければならないと、組合のみなさんからご意見を頂き、我々議連側からも意見を出させて頂いて、より良い方向で組合の頼りになるようにしっかりとした組織で信頼関係を構築していきたい」と挨拶した。

このあと組合役員議員の紹介、めっき業界の抱える問題などについて意見交

換した後、大西幹事長は「私ども 7 月一杯執行部で、次期執行部とも良く相談をしてみなさんの信頼が頂けるようなめっき議連を立ち上げていきたいと思うのでご理解を頂きたい。夏休み後の秋には我が党としてしっかりした組織作りをさせて頂き、勉強会も定期的にやらせて頂いて、めっき業界の問題が解決できるように頑張っていきたい」と挨拶した。

姫野正弘副理事長は「今日東京は 39.5 度を記録する猛暑の中をご出席頂き感謝申し上げます。歴史の中で培われためっき議連との関係であり、我々業界としても先生方にお願ひすべきところはお願いして、日頃困っている問題を解決していきながら、お互いの信頼関係を深めていきたい」と閉会の挨拶をして終了した。

当日の出席者は次の通り。(敬称略)

都議会議員：大西英男、新藤義彦、三宅茂樹、佐藤裕彦、北条貞治、大山均、服部ゆくお、三原將嗣、近藤やよい、樺山卓司、山本賢太郎、桜井武、田中晃三

組合：大村功作、姫野正弘、川上洋一、八幡順一、宮澤裕、小原俊幸、菊池忠男



専務理事歡送迎会

東京都鍍金工業組合正副理事長、各委員会委員長、事務局職員による専務理事歡送迎会が8月2日(月)午後6時30分から上野東天紅で開催した。

姫野正弘副理事長の開会の挨拶をあと、大村功作理事長は「私が理事長になり、最初が一戸専務理事で規約等基本的なことを整備して頂いたが体調を理由に1年でやめられ、その後宮澤専務理事が引き継いで頂いた。組合の定款や規約等一つの道筋をつけて頂き、お蔭様でどこから見ても恥ずかしくない組合となった。去られるのは残念だが、これから新しい職場に務めるが、民間の組合を務めあげて、後はどこへいっても楽だと思う。この経験を活かして頑張ってください。青木専務理事には慣れない職場で大変だと思うが、みなさんの協力を頂きながらあせらずに頑張ってください」と挨拶した。川上洋一副理事長の乾杯音頭で懇親会に入った。なごやかな歓談のなか八幡順一副理事長は「宮澤さんはヘビースモーカーであり、新しい職場では煙草をすえる場所がないということでこれを機会に禁煙して健康で末永く活躍して頂きたい」と送別の言葉を送った。

宮澤前専務理事は、「今日は私どものために立派な会を開いて頂き感謝申し上げます。業界は難しい問題が山積している時に退職するのは心苦しく思っている。私も頑張ってきたつもりであるが、新しい青木専務は能力、活力のある方で立派に引き継いで頂ける。思えば4年前の8月1日の暑い最中、不安と期待

を抱きながら組合に入った。何も分からなかったが、無我夢中でやらせて頂いた。8月1日から新たな職場(株)東京ビックサイトへ行くことになった。ビル管理等色々な事業を行っており、私はインキュベータ事業を担当する。新しく企業を起こす方の育成指導事業である。業界が新たな分野へ進出する時はご利用頂きたい。これまで私を支えてくれた理事長をはじめ各委員長さん、事務局のみなさんに心から感謝申し上げる」と謝辞があった。

青木新専務理事は「7月末に東京都を退職して8月から組合に出勤したが、温かい雰囲気ですべて迎えて頂いた。理事長の挨拶にあるように仕事の内容が違うが、出来るだけ早く慣れていきたい。東京都で長く色々な仕事をしたが、基本的には人材を育てる産業振興の仕事に携わってきたので組合にさほど違和感はないつもりである。宮澤専務が現体制を整備されたが、私はこれに安住するつもりはなく、業界の課題に真剣に取り組んで少しでおみなさんのお役に立ちたいと考えており、宜しくお願ひ申し上げます」と挨拶した。このあと、各委員会を代表して木村秀利常任理事の歡送迎の言葉があり、間部健太郎副理事長の閉会の辞までなごやかな宴が続いた。



産技研・業種別技術協議会

東京都立産業技術研究所は 8 月 5 日 (木) 午後 3 時 30 分から同研究所西が丘庁舎で東京都 鍍金工業組合と業種別技術協議会を開催した。

産技研が今後の事業運営に役立てるため業界団体と技術的課題などについて意見交換を行うもので、東京都から板谷明産業労働局商工部経営革新課長、市川克治産業労働局商工部経営革新課機械金属係長、水元和成(財)東京都中小企業振興公社多摩振興センター主任、産技研から井上滉所長、米原亮三管理部長、小柴辰幸製品開発部長、上野和義企画調整課長、小坂幸夫資源環境科学G長、吉野学資源環境科学G副参事、土井正資源環境科学G課長補佐、大塚健治資源環境科学G主任研究員、吉本圭子資源環境科学G主任、長谷川明良資源環境科学G主任、上原さとみ資源環境科学G主任、東鍍工組から大村功作理事長、姫野正弘副理事長、由田猛副理事長、川上洋一副理事長、間部健太郎副理事長、八幡順一副理事長、青木治男専務理事、小原俊幸協組専務理事、事務局の前田孝課長、長嶋政人環研課長、神戸徳蔵訓練校教頭が出席した。

会議は吉野学副参事の開会挨拶に始まり、井上滉所長が産技研の組織変更等について挨拶、大村功作理事長が環境規制問題や処理技術の開発・促進に関する要望事項を含めて挨拶した。

出席者紹介のあと、青木専務理事が組合の現状と産技研への要望を説明、板谷経営革新課長が産業労働局の取り組みを紹介、大塚健治資源環境科学G主任研究員が産技研の取り組みを紹介、意見交換に移った。小原協組専務理事から廃業した場合の土壤汚染対策、川上副理事長か



ら 6 価クロムフリー、鉛フリーの動向、大村理事長から暫定排水基準並びに海域と河川の規制値の格差問題、神戸教頭から代替技術の発注者へのアピール要請を行った。最後に米原亮三管理部長の閉会挨拶があり、会議を終了した。

第 3 回訓練修了生講演・懇親会の開催について

東京都鍍金工業組合
高等職業訓練校
校長 大村 功作

21 世紀がスタートして 4 年目になる本年において東京都鍍金工業組合高等職業訓練校は 35 期生を迎えて、生徒 50 名がめっき技術の向上を目的として職業訓練を行っております。

最近、めっき企業を取り巻く環境は物作りの発展途上国への移転や環境問題など大変厳しい状況ですが、平成 14 年度に開催した第 2 回訓練校修了生を対象にした会合につきましては、多数の修了生、派遣企業者、組合役員、講師にご出席いただき、有益な内容であったと高い評価をいただきました。その際のアンケートによりますと、この様な会合を隔年に開いて欲しいとの希望が多く、今年がその年に当たっております。

この厳しい状況の中でめっき企業が生き残るためには、新しい技術と経営方法を習得することが必要と思われます。

これらの問題に対処するためには、訓練校修了生とその派遣企業者を対象に講演会・懇談会を行うことにより新しい技術、新しい経営方法を習得していただくことが必要と思われます。また、今後の訓練校事業について修了生の立場での提案をいただくと共に同窓生相互の交流を行うことができればと思い計画しましたのでご参加ください。

開催日時	平成 16 年 10 月 23 日(土)12:30～15:30
開催場所	京王プラザホテル(新宿)5 階コンコードボールルーム A 新宿区西新宿 2-2-1Te103-3344-0111
対象者	修了生並びに派遣企業者
受付	12:00
開 会	12:30
講演時間	1 時間(12:40～13:40)
講演テーマ	「めっき工場の環境経営への取組」
講 師	清川メッキ工業株式会社 常務取締役 清川卓二氏
懇 親 会	1 時間 30 分(14:00～15:30)
会 費	7,000 円(会費は、当日ご持参ください。)
組合出席者	正副理事長、技能教育委員会経験者、訓練校講師

亜鉛めっき部会講習会開催のお知らせ

東京都鍍金工業組合亜鉛めっき部会(菊池忠男会長)は、昨年同様に、東京都鍍金工業組合(大村功作理事長)との共催により 6 価クロムフリーの講習会を開催しますので、多数のご参加をお願いいたします。

言 己

日	時	平成 1 6 年 1 0 月 7 日 (木) 午後 6 時 3 0 分より
会	場	めっきセンター 4 階 会議室
演	題	『3 価クロムクロメートの現状』
講	師	OEА ガルバノ事務所 青江徹博 氏
申 込 方 法		下記、申込書にご記入の上、FAX で送付して下さい。
申 込 締 切 日		平成 1 6 年 9 月 2 2 日 (水) 定員になり次第締め切らせていただきます。
対 象		亜鉛めっき部会員および工業組合組合員等
会 費		お一人様 1, 0 0 0 円 (軽食・飲み物・テキスト付) (各社何名でも参加可能です。会費は当日ご持参ください。)
問 い 合 わ せ		東京都鍍金工業組合事務局／近藤 TEL 03-3814-5621 FAX 03-3816-6166

平成 16 年 10 月 7 日開催講習会出席申込書

講習会に出席します。

支部

会社名

氏名

出席者数 名

※お申し込みは、この用紙で F A X (0 3 - 3 8 1 6 - 6 1 6 6) にてお願いいたします。

亜鉛めっき部会

総 会

東京都鍍金工業組合亜鉛めっき部会(菊池忠男会長)は6月15日(火)午後6時30分から上野池之端の伊豆榮で定時総会を開催した。

半田實副会長の司会でまず会員出席者 21名、委任状 23 名により総会が成立する旨を報告、菊池会長は「昨年の総会で会長を拝命して1年が経過した。亜鉛部会は昭和 45 年の公害国会のあと当時の八幡健副理事長が会長となり会員数 200 名以上をもって発足したが、その後組合員の減少とともに亜鉛部会会員も減少したが、今回新たに会員 3 名増えて 45 名となった。その中には杉山元会長、神谷葛飾支部長も会員になって頂いた。我々業界は昭和 45 年以降安心して仕事が出来た年はなかったと思う。今年ほう素ふっ素等の暫定基準の延長が決まり少し安堵しているが、亜鉛が 30 $\mu\text{g/l}$ 、0.3ppm になる可能性があり、今回のほう素ふっ素のようにみなさんアンテナを高く伸ばして注意して頂きたい。もし 0.3ppm で決まったら鉛の二の舞であり亜鉛めっきを続けることができなくなってしまう。私は本部で環境委員長を仰せつかっているが、新しい情報をキャッチしたらお知らせ頂きたい」と挨拶した。議長に野上榮一前会長を選出して議事に入った。平成 15 年度事業報告を内山昇副会長、会計報告を海野吉正会計、会計監査報告を西谷幸一監事が行い、承認された。続いて、平成 16 年度事業計画案並びに収支予算案が原案通り承認された。また亜鉛部会歴代役員表が配布され、海

野会計から作成経過等の説明があり、遠藤清副会長の閉会の辞をもって総会を終了した。

引続き二部懇親会に移り、中村昭人副会長の司会により菊池会長の挨拶し、新会員の高松電鍍工業(株)、長圓(株)、神谷電化工業(株)を紹介するとともに「3 価クロメートの時代の流れになり、こうした情報交換を行っていけば亜鉛部会が素晴らしい会になると思う。みなさんのご協力をお願い申し上げる」と述べた。

来賓として大村功作理事長は「総会が滞りなく終了したことをお祝い申し上げます。3 価クロメートも大問題で、今後世の中がどのように変わっていくか、亜鉛めっきがどう変わっていくか大きな課題である。菊池会長が言われたように情報交換が重要になっており、みんなで協力し合って生き残りを考えていかなければいけない。そのためにも亜鉛部会の重要性も増しており、今回新会員が 3 名増えたが、今後も会員増強を図って頂きたい」と挨拶、川上洋一副理事長の乾杯音頭で懇親会に入った。懇親会は葛西康二元会長の中締めまでなごやかに進められた。





錆びにくさ 20 倍のめっき技術

(フジサンケイ ビジネスアイ 04.7.16)

鉄板を錆びにくくするために、溶けた亜鉛で鉄板を覆う溶融亜鉛めっき。古くから一般化している技術だが、鉄鋼各社はさらに錆びにくくする研究を競っている。日新製鋼は五年の歳月を費やし、2000 年に従来めっきと比べて 10-20 倍も錆びにくいめっき「ZAM(ザム)」の開発に成功した。これは社運を賭けたプロジェクトだった。1911 年に創業した「亜鉛鍍」が源流の「日本鉄板」と、1908 年創業の「田中亜鉛鍍金」が源流の「日新製鋼」が 59 年の合併時に、中国古典の「大学」の一節にある「日々新、又日新」という言葉にちなんで名付けられた。両社に共通する「日」の字を残したいという両社社員の要望もあった。開発しためっき技術・製品の「ZAM」は亜鉛、アルミニウム、マグネシウムの元素記号である「Zn」「Al」「Mg」の頭文字。

亜鉛メッキ鋼板クロメート全廃

(日刊工業新聞 04.7.16)

神戸製鋼所は 15 日、OA 機器や家電などに使われる電気亜鉛メッキ鋼板で、六価クロムの水溶液で表面処理する「クロメート処理」を 05 年 3 月末までに全廃すると発表した。欧州 連合(EU)が六価クロムやカドミウムなど有害化学物質 6 種類の電子・電気機器への使用を 禁じる「RoHS 指令」を 06 年 7 月に発効するのをにらんだもので、日本の鉄鋼メーカーでは 初めて。

メッキ不要に着目

(日刊工業新聞 04.7.20)

石関工範(群馬県高崎市)は、絞り加工による精密ステンレス部品の製造に乗り出す。メッキ加工の必要がないステンレスの環境配慮性や、耐久性に着目。真ちゅう、銅で培った加工ノウハウを生かした事業展開で、経営基盤を強化するのが狙い。まず、携帯電話の部品でサンプル出荷を始めており、同事業の売上高で 08 年 3 月期に 2000 万円を目指す。

RoHS 対応鉛フリー技術標準化

(日刊工業新聞 04.7.23)

沖電気工業は製品に鉛を使用しない「鉛フリー化」技術に関し、関連会社を含めたグループ全体で標準化する試みを開始する。これまでグループ内で異なっていた鉛フリー化技術で、部品選定や工程などの各種設計情報を 1 年後めどに共有化し、環境配慮製品への取り組みを加速していく。鉛は土壌汚染などにつながるとされており、06 年 7 月から欧州連 合(EU)各国で施行される「RoHS 指令」でも使用規制の対象物質になっている。このため、電子機器の鉛フリー化需要が高まっている。

土壌汚染処理の相場

(日刊工業新聞 04.8.2)

重金属による汚染土壌 65 立方メートルの浄化費用は 230 万円から、揮発性有機化合物(VOC)による汚染土壌 140 立方メートルの浄化は 330 万円から一。東京都が 7 月に初めて開いた「土壌汚 染処理技術フォーラム」で、参加企業が提示した最も低い浄化費用だ。都では「バラつきはあるが、相場を示すことができたし、考えていた以上に低コスト化している」(池田茂環境局環境改善部副参事)と評価、土壌浄化が必要な中小企業にも

役立つと期待している。

土地の売買の場合、土壤汚染リスクの評価・検討は不可欠なうえ、最近には土壤汚染調査や処理が義務付けられている。とくに都内には住工混在地区に中小零細企業が立地するケースも多く、狭い土地にも適用できる低コストの処理技術が求められている。都は低コスト

技術を求める工場側と、土壤浄化ビジネスを展開する事業者側の橋渡しを目指しフォーラムを開催した。

有機溶剤処理装置

(日刊工業新聞 04.7.30)

西部技研(福岡県古賀市)は、ハニカム積層体とプラズマを組み合わせた有機溶剤(VOC)処理装置の試作機を完成した。九州大学、岡部マイカ工業所(福岡県中間市)との共同開発で「国内で初めて」(隈社長)となる。プラズマを利用するためVOC処理時の燃焼処理装置が不要になり、小型化や低価格化が可能となる。装置はトルエンやホルムアルデヒドなどVOCを含んだ空気をハニカム積層体に吸着させ、ハニカム内部でプラズマを発生させて高速で酸化分解する。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の04年度「有害化学物質リスク削減基盤技術開発」委託事業にも選定されており、同機構から4000万円の委託費を得て開発中。07年度に製品化を目指す。

金属寿命を正確予測

(日刊工業新聞 04.8.2)

富士総合研究所は水や海水、化学溶液などにさらされている金属表面のマクロセル腐食速度の解析システムを開発した。8月に市場投入する。腐食速度を定量的に評価し、金属寿命を正確に予測することで、最適設計ができる。石油化学、機械業界などに

普及を図る。

無錫金属表面処理科技工業園視察

(日刊工業新聞 04.8.2)

日本のメッキ関連中小企業約30社が、中国・江蘇省の無錫金属表面処理科技工業園(無錫市恵山区)を視察した。同園は金属表面処理業向け専門団地では中国で唯一、正式に省の認可を受けている。環境問題から、中国でもメッキ関連業者は一般工業団地への進出が年々難しくなっている中、同園は省の全面支援を受けて排水処理施設などを整備した。企業は低コストで進出できるのが特徴。朱倫昌無錫市恵山区書記長は「目標は一流の工業団地にすること。そのためにも、技術、環境意識とも一流の日本企業に来てほしい」と熱心に語った。

無錫金属表面処理科技工業園は上海市内から高速道路で約2時間の場所に立地。現在、第1期開発区が完成し、すでに13社が進出。うち7社は韓国、台湾、米国系企業。日本企業第1号としては、半導体リードフレーム製造販売の神鋼リードミック(北九州市)の進出が決まっている。月内に営業許可を取得し、上海周辺の日系および外資系半導体メーカー向けの外装メッキから手掛ける。今回、同園を視察したメッキ業者の多くは「顧客が中国に進出し、自分たちも来るように要請されている」(福井順子福井電化工業社長)という。それだけに関心も高く「排水などの共同管理のリスク分担はどうなっているのか」「賃金水準は上昇していないか」「1日当たり6000トンの排水処理能力で需要が追いつくのか」といった具体的な質問が相次いだ。

日本鍍金材料協組 METEC'05 単独開催発表

日本鍍金材料協同組合(間宮勝理事長)は、来年の METEC'05(表面技術総合展)の単独開催について7月15日業界紙(誌)に発表した。

はじめに間宮理事長は、「METEC は、これまで、当組合と(社)表面技術協会を含め5団体が共催で開催してきた。しかし、この度(社)表面技術協会の事情により2005年開催のMETEC から離脱されることになり、また日本塗装技術協会、(社)日本熱処理技術協会、(社)日本表面処理機材工業会も、それぞれ団体の事情により脱退することになった。



従って、来年の METEC'05 からは、当組合が主催団体として引き続き開催していくこととなった。当組合が主催団体として単独で開催するにあたり“展示会の開催理念及び運営をどのように行なっていくのか”とのお尋ねの向きもあるかと思うが、当組合は、過去、昭和42年11月に“第1回めっき材料総合展”として展示会を開催して以来、さらにMETEC(表面技術総合展)として5団体共催で開催して今日まで、展示会開催に対するコンセプトは、一貫して変わっていない。当組合は、めっき薬品・材料・機械設備の販売又は製造を目的とした事業会社で組織されている事業協同組合であり、当組合の事業は、組合員の事業及び経済活動を促進することを目的としている。従って、一言で当組合の展示会に対する開催理念は、出展各社が“商売になる展示会”としての意義付けを目指したいと思っている。これからも、これまでのMETEC の開催理念を踏襲しつつ、さらに新しい企画を盛り込んだものとして開催していきたいと思っている。METEC'05 の具体的開催内容は、実行委員会を設置してこれから検討するが、現在、METEC'05 の開催で決定しているのは、次の通りで METEC'05 の開催に向けて、広範囲の来場者を集客できるよう、順次、企画・立案していきたい」と挨拶した。

開催日：平成17年5月26日(木)～28日(土)の3日間

場 所：例年通り“東京流通センター”

続いて小松康宏常務理事から METEC'05 開催経緯について「METEC は、当組合が昭和42年から開催していためっき材料総合展と(社)表面技術協会、日本塗装技術協会、(社)日本熱処理技術協会、(社)日本防錆技術協会と共催で昭和37年から開催していたメットショーの2つの展示会が昭和58年に合併し、その後(社)日本防錆技術協会が脱会し、平成8年に(社)日本表面処理機材工業会が参画して5団体共催で開催してきた。METEC の実施に当たっては共催5団体の理事会が推薦する委員各2名以内にもって構成する組織委員会において運営してきた。昨年来の組織委員会において平成17年以降開催のMETEC の方向性、展開の将来の在り方等について共催5団体で検討するよう提案があり、それぞれの意向を踏まえて審議を重ねてきた。その結果、平成15年12月17日開催の組織委員会において(社)表面技術協会が離脱されることを表明した。当組合は平成16年2月10日開催の組織委員会において従来通りMETEC を継続していくことを表明した。日本塗装技術協会は平成16年3月4日の組織委員会で脱会を表明、(社)日本熱処理技術協会及び(社)日本表面処理機材工業会が平成16年2月

10日の組織委員会で脱会を表明された。従って当組合としてはMETECが表面処理業界においてめっき材料を中心とした新製品、新技術の紹介の場として広く浸透しており、今後とも必要な展示会であると認識し、来年のMETEC'05も当組合が単独で継続して開催していくことになった。METEC'05の開催内容は実行委員会を設置してこれから検討していくが、これまでのMETECが業界に与えた意義を尊重してさらなる内容の充実を目指していきたい」と説明した。

「SURTECH&Coating Japan2005/表面技術博覧会」

(社)表面技術協会は8月9日、『SURTECH&Coating Japan2005/表面技術博覧会』開催について次の通り発表した。

(社)表面技術協会はめっき・塗装・熱処理などの表面処理技術に係わる企業(ユーザー、サプライヤー、加工業)と大学・試験研究機関などが一同に会し、「表面処理における新ビジネスの創出」のテーマのもとに、企業のブース展示と講演会のコラボレーションによる情報交換の場として、特別協賛団体のご協力を得て新たに博覧会を開催することになった。

- 1.名 称: SURTECH&Coating Japan2005(サテック アンド コーティング ジャパン)
 - 2.開催日時: 平成17年4月26日(火)～28日(木)
 - 3.会 場: 東京流通センター(大田区平和島)
 - 4.企 画: ①特別講演会: 開催テーマに関連した実行委員会企画講演会
②技術講演会: 出展企業による製品・技術の紹介、解説
③部会講演会: 表面技術協会傘下の各種部会による講演例会
④各種セミナー: 特別協賛団体等が企画する講演セミナー
⑤ユーザー情報コーナー: ユーザー企業の表面処理にかかわる諸情報の発表
⑥ポスター発表コーナー: 企業・大学・研究機関の研究成果
⑦技術相談コーナー: 表面技術の専門家が技術相談に応じる
⑧情報交換掲示板: 出展企業、来場者が自由に書き込みをして情報交換
⑨表面処理加工コーナー: 最新の加工技術の発表
⑩書籍販売コーナー: 表面技術関連の書籍の販売
 - 5.展示規模: 90社、180小間(予定)
 - 6.来場者数: 18,000名(予定)
 - 7.来場対象者: 自動車・電気・電子・情報・通信など幅広い業種の設計・開発技術者、販売営業担当者、めっき・塗装・熱処理などの表面処理関連業者、生産従事者、官公庁・大学・試験研究機関及び諸団体の関係者
 - 8.出展対象: めっき関連業種、塗料・塗装関連業種、熱処理・表面硬化関連業種、ドライプロセス・表面改質関連業種、環境保全・安全対策関連業種、試験・検査・研究・指導関連業種、官公庁・大学・試験研究機関及び諸団体、その他表面処理に寄与する関連業種
- 問合せ先: (社)表面技術協会「SURTECH&Coating Japan2005」実行委員会 電話 03-3252-3286 FAX03-3252-3288

常木鍍金工業(株)

環境 ISO14001 認証取得

城北支部の常木鍍金工業株(本社・北区田端新町3-8-2、川口工場:川口市朝日5-4-18、常木茂宏社長)は、6月25日、川口工場において環境マネジメントシステムに



関わる国際規格 ISO14001 を(財)日本品質保証機構(JQA)から認証取得した。登録番号 JQA-EM4098、登録範囲は「電解及び無電解工法による金属めっき加工」。

同社は機能めっきに特化して弱電部品、DVD関係、携帯電話部品などを取扱っている。4年前に ISO9001 を認証取得したのに続いて今回 ISO14001(1996 年版)を認証取得した。環境影響に配慮した事業活動が重要な企業使命であるとの理念にもとづいて、「環境方針」に沿って、環境負荷の低減並びに環境汚染の防止・予防に関わる環境管理の充実・改善に一層の努力を払い、ユーザーの信頼に答えていきたいとしている。

「現在大手メーカーはグリーン調達を強く打ち出しており、仕入先の選別が厳しくなっている。こういう世の中の動きに対していち早く取り組んでいこう」と昨年4月1日に常木社長がキックオフ宣言。一般に ISO の認証取得に関しては、コンサルタントやアドバイザーの指導を仰ぐのが普通であるが、同社は、専門家に一切頼らないで社員一丸となって取り組んだ。「社員全員で取り組んだことにより、より身近な私どもの工場に合った目標を立てられたのではないかなと思う」(常木社長)

認証取得後の効果について「社員の意識が高まり、工場内外の整理整頓が行き届いてきれいになってきた。新しい薬品を使うにして



(左・常木副社長、右・常木社長)

も排水処理に負担がかからないか、環境にどんな影響があるのかまで吟味して購入するようになった。特に整理整頓がされてゴミが分別されることによりゴミの発生量も減ってきた。自分たちがどんな活動をすれば良い結果が表れるかという意識が、家庭に戻っても出てきたと聞いており、広範囲に浸透してきたと感じている」(常木英夫副社長)

さらに「5Sの日」として月1回、社長をはじめ全社員が参加して工場周りや近くのグラウンド、公園を清掃をして地域住民とのコミュニケーションを図っている。

「お蔭で近所の主婦もそういうことをする工場は初めてだと一緒に掃除に参加して頂き、地域住民との共生という良い方向になっている。めっきはレア金属を薄くつけることで金属の特性を変える省資源の事業であると思っているが、さらに限りある資源を大切に、環境を壊さないようなものづくりに努めていきたい」(常木副社長)

川口工場は社員数百数名、平均年齢は20代と若く活気にあふれている。また社内には生け花が至る所に置かれ、明るいクリーンなイメージに配慮していることが伺える。

常木社長の経営方針として「社員のしつけから5Sの徹底」が ISO14001 を取得することによって一段と加速している。

第 38 回上級表面処理技術講座

－受講生募集－

(株)ハイテクノは第 38 回上級表面処理技術講座(11 月開講)の受講生を募集する。

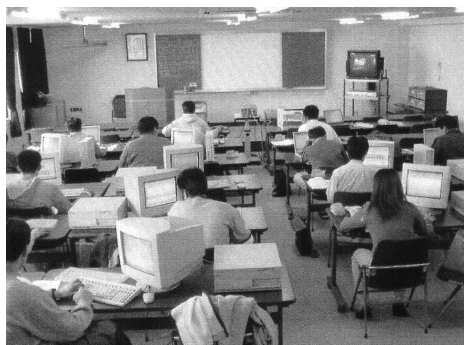
開講以来 38 年目を迎え既に約 1500 名の修了者を業界に送り出している。最近の講師陣には多くの卒業生を数えるようになっている。開講以来教育方法を工夫しながら改善を重ね、ビデオ、プロジェクター等の AV 機器をフルに利用した効果的な授業を行っている。また時代の変遷とともに、表面処理技術の内容も変化し、進歩するので、毎年時代に即応したカリキュラムを編成し続けてきた。一方的な知識の詰め込みだけでなく、各講座単位ごとに行われる確認テスト、グループ討論や修了認定研究発表などを通じて幹部にふさわしい人間教育も行っている。

講座は「一般めっきコース」と「回路・実装コース」の 2 コースがあり、「一般めっきコース」では湿式めっき技術を中心とするほか、ドライプレーティング、陽極酸化、工業塗装等の関連表面処理科目も設け、幅広い表面処理技術分野を学ぶことができる。「回路・実装コース」では新しい時代に即した回路・実装技術者の養成を図る。また、工場幹部に必要な工場経営や生産管理、品質管理、環境管理などの管理科目を設けている。それぞれのコースにはじっくり教育を目的とする本科(基礎科目+専門科目)と、忙しい人のための専修科(専門科目のみ)が選択できる。

講座では、普通の大学や講習会とは違って、時間厳守の方針をとり、出欠を厳しく管理している。各授業の終わりには内容確認の目的の簡単なテストを行う。

講師陣は受講生のアンケート回答により受講生の理解度をフィードバックして授業内容や授業方法の改善に努めている。

講座は午前 10 時から午後 5 時で、東北や



関西地区からの新幹線通学も可能である。受講生によるグループ討論会、懇親会、修了認定研究等を通して発表力、討論能力を養成すると同時に人間関係もつくる。

講座期間は本科が平成 16 年 11 月から 17 年 11 月、専修科は平成 17 年 2 月から同年 11 月まで、原則として木曜日開講(AM10:00～PM5:00)一部土曜日開講。定員は本科一般めっきコース 20 名、回路・実装コース 10 名、専修科は各コース 15 名(申込順受講認可)。講堂は京浜島センタービル。

費用は本科の入学金がハイテクノ会員企業無料、その他企業 5 万円、本科の受講料は年間 50 万円。専修科の入学金はハイテクノ会員企業無料、その他企業 5 万円、受講料は年間 45 万円。入学金、受講料は 10 回分納方式もある。申込締切は 10 月 20 日。

なお同講座には「キャリア形成促進助成金」制度が適用される。従業員の派遣を計画の事業所は 8 月中旬に事業内職業能力開発計画作成の相談・提出を、当地の雇用・能力開発機構(ナビダイヤル 0570-001154)へ。

受講資格は、学科の程度は高専、大学程度なので、大卒(文系を含む)は勿論、高卒程度の知識と意欲があればついて来られるので資格制限はしていない。また所定の合格認定単位数に達し修了認定研究の審査に合格した者に対しては修了認定証が授与される。

申込みは、上級表面処理技術講座事務局(〒143-0003 大田区京浜島 2-16-1 京浜島センタービル内)

TEL03(3790)3174(代) FAX03(3799)0928

＜支部シリーズ＞

城北支部の巻 —北区名主の滝飛鳥山公園—

広報の記事を考えていたら、子供の頃自転車で走り回っていた王子、飛鳥山周辺を、久しぶりに見てみたくなった。



「名主の滝は、王子村の名主畑野家が、その屋敷内に滝を開き、茶を栽培して、一般に人々が利用できる避暑のための施設としたことにはじまるもので、名称もそれに由来しています。(中略)園内には滝や、あずまやがあり、桜やもみじ、野鳥や夏の蛍の観察会など、四季折々の自然が楽しめます。」(案内より)

子供の頃の思い出より、幾分かきれいに整備された気がした。木々が日の光を遮り、滝や川の水音が涼しく感じた。じっとしていると時の流れを忘れそうだ。

ここが王子か?と思いたくなるような水と緑に囲まれた園内には、意外にも人が少なく、お年寄りや家族づれが少しだけ見受けられた。昔の私たちのような子供たちはいなかったが、久しぶりにザリガニと再会した。



王子駅の周辺は、昔の景観とは大きく様変わりしている。新幹線が走り首都高速が飛鳥山を貫いている。飛鳥山公園はどうなっているだろうか。

「現在も桜の名所として、毎年春には多くの人々が訪れます。ソメイヨシノのほか、4月中旬には「御衣黄」(花は淡い緑色)、「福祿寿」(花は大輪の淡い紅紫)などの八重桜も楽しめます。5月下旬～6月中旬にはJ R線路沿いの「飛鳥の小径」に



アジサイが咲きみだれます。平成10年に公園内にオープンした北区飛鳥山博物館・渋沢史料館・紙の博物館の「飛鳥山3つの博物館」も見所です。」と案内に書かれています。

以前より水辺の遊び場が整備され、家族連れがにぎわっている。子供の頃に遊んだ城、D51機関車は今も残されていた。昔、飛鳥山の下、都電沿いにあった紙の博物館が飛鳥山博物館、渋沢資料館とともに公園内に新設されていた。

紙の博物館は以前、王子製紙王子工場跡にあったが、以前の建物はどうやら工場内の発電所の建物を利用した物らしく、新しく生まれ変わった博物館はとても立派でモダンな物になった。日本の洋紙発祥の地である王子に作られたもので、展示には紙の歴史、製造や種類に関わる物は勿論、リサイクルや植林等についても行われている。

飛鳥山博物館は飛鳥山や北区を中心にした自然、歴史等を展示・体験出来る博物館で、現在の荒川の動植物の展示にはゴミもあるが、こんなに多くの生き物がいると再認識した。建物内にカフェもあり散歩に疲れたら一休みにも使える。

渋沢資料館は、渋沢栄一のゆかりの地に博物館を設けたもので、3つの博物館のなかでもっとも静かな博物館だった。とても静かな館内のリフレッシュコーナーは、音の無い部屋から外の日に照らされる木々を眺められ、とても落ち着く。

名主の滝公園も飛鳥山公園も、区民の憩いの場所という役割を持つ一方、災害時の給水施設を持っており、万が一の時には支えとなるように考えられている。

今度は、ゆっくり散歩でもしながら久しぶりに卵焼きでも食べてみようか。



(紙の博物館)



(飛鳥山博物館)



(渋沢資料館)

王子駅周辺にお越しの際は、一度足を運んでみてはいかがでしょうか？

北区観光ホームページ

<http://www.netcity.kita.tokyo.JP/kan-ko/>

(広報委員 上原裕司)

■十日会

7 月例会

日本鍍金協会・十日会(斉藤晴久会長)は 7 月 15 日(木)午後 7 時からめっきセンターで例会を開催、講師にニッセイ同和損害保険(株)東京支店・海野雅敬氏を招き「企業におけるリスクマネジメント」の講演を会員 30 名が聴いた。

例会は柴田徹幹事の司会により、斉藤会長は「本格的な夏を迎えて、我々のような町工場の現場は長靴の中に汗が溜まるほど汗をかきながら仕事に励んでいる。新聞では中小零細企業まで景気が上向いていると報じられているが、このまま本格的な回復に結びついてくれると嬉しい。ただ我々に対するユーザーさんの要求が高まっている。以前はなかったことだが、納品した製品に対してクレームがつけられる。この結果赤字を切ることもあり、その折衝に足を運ぶことが多くなっている。我々は品質を第一に考えた行動をしっかりとしていかなければいけないと思う。自分たちの仕事のやり方で自分たちを守ると同時に、企業を含めた色々な事件が発生しており、最近保険を含めた話を聞く機会があり、自己防衛としてリスクを少なくするために保険を知る、保険以外にどういうものがあるかを知ることが必要であると思う。今日は保険を含めてリスクマネジメントの話の聞きながら意見交換をしていきたい」と挨拶した。

企業は様々なリスクを抱えながら事業運営している。そのリスクを最小限に止めようとするのがリスクマネジメントである。もし発生したリスクによる損失は補償や賠償など直接的な金銭もあるが、



それ以上に信用の失墜が企業経営に大きな影響を及ぼす。今回、海野講師はレジメに従い、①企業を取り巻くリスク、②火災リスク、③PLリスクなどについて、中長期的な視野に立った対応策、防衛策、実例などを交えながら講義した。

訃 報

謹んでご冥福をお祈りいたします
大村テル様(城南支部・大村鍍金工業所社長)7 月 19 日肺がんのため死去、78 歳。告別式は 24 日午前 10 時から目黒区 セレモニー目黒で行われた。喪主は房枝様。

西山あさ様(葛飾支部・(有)西山電化西山安次社長のご母堂)7 月 21 日午前 1 時 40 分大腸癌 腸閉塞のため死去、88 歳。告別式は 24 日午前 10 時から四ツ木斎場で行われた。喪主は安次様。

池田光明様(西部支部・(有)池田研磨工業所社長)8 月 13 日午前 7 時死去、45 歳。告別式は 18 日午前 10 時 30 分から吉祥寺アバホールで行われた。喪主は池田勲様。



“カレーライス”

石川 貞行(大田支部)



「へえー、なるほど」
向かいの席で一緒に食事をとっていたS嬢が感嘆の声をあげた。
「そうやって、ご飯の方から攻めていくんだあ」
私はちょっと恥ずかしくなり、カレーを食べている手を止めた。
S嬢は感心したように一人でうなずいている。
「学生時代からのクセでね」
私は気まずそうに返答すると、またスプーンを動かした。
（そういえばいつの頃からだろうか）
食べながら自問自答してみる。
（そう、あれは大学時代のことだ）
今から二十年以上前のことになる。

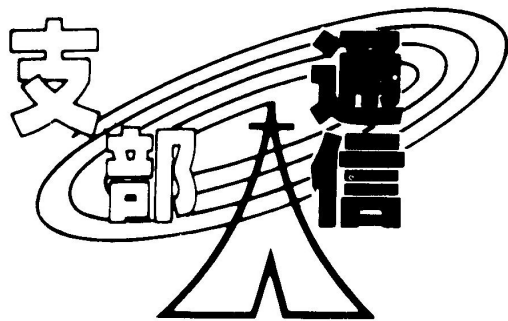
当時の我が家は私が私立大学に入学したり、妹が専門学校に入学したりと、学費が跳ね上がっていた時だった。母親も家計を助けるためにパートに出て、私が大学の講義を終えて帰宅しても、家を守っているのは三匹の猫だけだった。二十歳前後の若者はいつでも空腹である。そんな私を気使ってか、電子ジャーにはいつもご飯が温められていた。

両親の実家が新潟と栃木だったため、お米についてはある程度不自由はしていなかったのが幸いである。

帰宅した私は電子ジャーの中身を確認すると、レトルトのカレーを暖める。三時のおやつというわけだ。定番はHウス社のKレレカレー（辛口）である。何故かって？スーパーで安売りしているからである。

レトルトカレーを暖めながら大皿にご飯をよそる。そのとき、しゃもじを水でサッと濡らしてご飯粒がしゃもじに付かないようにするのだが、水の節約のためカレーを暖めているお湯を使う。そのよそるご飯の量は通常の1.5～2倍となる。対するカレーは一人前だけなので、どうしてもカレーが不足してしまう。少しのカレーでいっぱいご飯を食べたい！だから「辛口」が定番となる。そして、いかにカレーを残さないように食べるか、が命題となる。食べた後の皿にカレーがこびりついているようではバツである。カレーが流れてこないようにご飯でせき止めながら、食べていく。カレーは、よそった時の位置（最小占有面積）から動かない。最後はご飯で皿のカレーを拭くように食べる。食べ終えた皿が結構キレイなのが自己満足となる。こうなると皿を洗う洗剤の節約にもなる。環境にも優しいわけだ。

かくして、私のカレーの食べ方に独特のクセがついてしまった。
四十を越えた今でもカレーを食べるときはご飯の方から攻めていく。



■城東支部

納涼会

城東支部(遠藤清孝支部長)は7月16日(金)夕、江戸川区船堀の東京健康ランドで支部員16名が参加して納涼会を開催した。

当日は午後5時から受付、同ランドにはサウナ、ジェットバス、長寿薬湯、露天風呂など色々な湯があり、ゆったりと各種湯を楽しむことができる。

7時から広間に集まり懇親会、新井嘉喜雄副支部長の司会により、遠藤支部長は「恒例の納涼会に大勢お集まり頂き感謝申し上げます。今年は例年に増して暑い日が続いており夏バテ気味の方もいると思うが、夏バテ解消にはお風呂が一番である。先週も個人的に信州の温泉へ行きリフレッシュしてきたが、私が支部長の時はお風呂の企画を立てていきたい。今日は時間の許す限り楽しく過ごして頂きたい」と挨拶。梶原信孝相談役が「楽しい企画を立てて頂き感謝申し上げます」と述べて乾杯の音頭をとった。きれいどころが加わってなごやかな宴会が続き、最後に八幡順一副理事長は「温泉づいた遠藤支部長が毎年やるということで楽しくやっていきたい」と述べて中締めを行い、納涼会を終了した。



■城南支部

納涼会

城南支部(中澤敏明支部長)は8月9日(月)午後6時30分からフカヒレ料理で有名な筑紫 樓広尾店で支部員13名が出席して納涼会を行った。

はじめに中澤支部長は「今年の夏は異常と言えるほど暑く、みなさんも夏バテ気味だと思うが、今日はこの暑さに負けないよう有意義な時間を過ごして頂きたい。大村理事長の発案により来年1月の本部の合同新年会が初めて全組合員に声をかけて開催することになり、支部長が実行委員を依頼された。東京の鍍金組合は大きな組織で、団結力があることを内外に示すことを目的としこれにより組合運動を有利に展開していこうという趣旨である。当支部から理事長が選出されて

おり、多数の参加をお願いしたい」と挨拶をした。大村功作理事長が挨拶し「過日は叔母の大村テルの葬儀に際しみなさんからお世話になったことを御礼申し上げます。大村鍍金の今後については親族会議を開き、当社都南ビーピーが統合する形でやっていくことにしたのでよろしくお願いしたい」とお礼を述べるとともに、今年度の組合行事として、訓練校修了生を対象とした講演会・懇親会、関東甲信越静ブロック会議の開催、組合事務局人事の異動などについて説明した。木村秀利常任理事は「来年の合同新年会には支部員全員が参加するようにお願いしたい。暑さが厳しい中、私を含めてそれなりの年齢であり身体を大切にしてください」と述べ乾杯音頭を取った。筑紫樓のフカヒレ料理を堪能しながら歓談、特に海外視察旅行について活発に意見交換、上海かベトナムで計画を練っていくこととし、藤田嘉雄会計の中締めにより終了した。



■中央支部

納涼会

中央支部(小嶋摂郎支部長)は8月5日(木)上野精養軒屋上ビアガーデンで支部員、ご家族、従業員の皆様など35名が出席して納涼会を開催した。

始めに小嶋支部長が「連休前のお忙しいところをご出席いただき、感謝申し上げます。まだまだ暑い日は続くが、今日は心行くまで楽しんでいただき、残る夏また一層励んでいただきたい。」と挨拶をし、支部員を代表し長谷川健治様の乾杯の音頭で始まった。精養軒は上野公園の高台に位置し、屋上からは不忍池などが一望できる。今年の夏は猛暑となり、当日も暑さの厳しい日ではあったが、心地よい風とともに屋上からの夕焼けや不忍池などの夜景を眺めながら飲むビールは格別で、気の置けない仲間同士、仕事や趣味の話など話題は尽きず楽しいひとときを過ごしました。(文・下の写真 堀江清)

親睦ゴルフ大会団体戦スコア

広報7月号に東鍍工組第7回各支部対抗親睦ゴルフ大会(7月4日/美浦GC)の個人戦並びに団体戦の成績を発表しましたが、団体戦は順位だけでスコアを発表しませんでした。スコアを出してほしいとの依頼がありましたので、改めて団体戦のスコアを発表します。スコアは各支部上位5名平均スコアです。

優勝	西部支部	73.8
2位	城南・品川支部	74.2
3位	葛飾支部	74.7
4位	城西支部	75.0
5位	足立支部	75.4
6位	本所支部	76.6
7位	大田支部	76.6
8位	城東支部	77.4
9位	向島支部	78.0
10位	中央支部	78.6
11位	城北支部	78.8



■足立支部

北千住駅前 ADACHI CITY VISION で 足立支部が紹介される

足立支部(永田一雄支部長)は足立区工業会連合会に加盟しています。足立区経済産業部では工業会傘下の各種団体について、順次、取材し、北千住駅前の 378 インチ、フルカラーLED表示装置(ADACHI CITY VISION)に放映されます。足立支部は8月5日、株式会社梅田鍍金工業所が代表して取材を受けました。

女性のレポーターが突然に会社を訪れるという形で永田支部長と細井副支部長が応対しました。

放映は8月18日から8月31日までの午前10時から2時間おきに、午後8時までの1日7回放映されました。

内容は「あだち最前線」というテーマで、支部内の事業所のめっき製品を展示して説明しました。

「鉄の防錆用の亜鉛めっき」、「金、銀など装飾用の貴金属めっき」、「ABS樹脂上のクロムめっき」、これからの環境対応型の新しいめっき技術として、「6価クロムフリー3価有色クロメート」、「6価クロムを使用しない3価クロムめっき」、「ホウ酸を使用しないクエン酸ニッケルめっき」を展示して説明しました。

引続き工場内を案内し、全自動で稼動するバレル銅、ニッケルめっきラインについて説明しました。

排水処理設備は大型の全量濾過フィルタープレスを紹介しました。

塩水噴霧試験装置の蓋を開けて、亜鉛めっきされていないで僅かな時間で赤錆



が発生した鉄のネジと、亜鉛めっきされ240 時間経過しても、綺麗なネジを見てもらいました。亜鉛めっきの優れた防錆能力にレポーターさんは驚いた様子でした。

最後に工場の屋上に案内し、付近には高層マンションが立ち並び、それらが以前は工場であったことを説明しました。

めっきは物づくりには不可欠な大事な技術で、足立区の地場産業であるばかりでなく、国の基幹産業であることを認識してもらいました。

レポーターさんが「めっきってDEEPですね」とつぶやいた一言が大変嬉しく思いました。(永田一雄)

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況(平成16年4～6月期)

東京都産業労働局産業政策部は都内中小企業の景況調査と併せて設備投資、資金繰り状況等を調査した。調査結果の概要は次のとおり。

◇設備投資を「実施した」企業の割合は、前期に続き当期もわずかに減少し20%となった。しかし、前年同期比では2.7ポイント増加している。卸売業だけは前年同期比、前期比ともに実施企業割合が増加した。

◇来期の設備投資について「実施予定」と回答した企業の割合は21.3%と、当期実績よりも1.3ポイント多く、引き続き高い投資姿勢を維持している。なお、前年同期比では3.4ポイント増加した。サービス業は30.8%と依然、設備投資意欲が強い。

◇当期の採算状況を「赤字」とする企業の割合は35.6%で前期比0.5ポイント増加した。また、「黒字」とする企業の割合は23.4%で前期比2.5ポイント減少となった。採算の改善状況は足踏み状態。

◇当期の資金繰りが「苦しい」とする企業の割合は35.4%で前期比2.9ポイント減少し、着実に資金繰り状況の改善が続いている。特にサービス業では前期比6.8ポイント減少し、改善が目立つ。

◇当期の雇用人員を「過剰」とする企業の割合は、この1年減少を続けていたが、当期は前期比1.3ポイント増加し13.3%となった。「不足」の企業割合も全業種で減少するなど雇用状況にやや変化がみられた。

編集後記

城東支部が健康ランドで納涼会を行い、色々な湯を楽しんだ。心身のリフレッシュには温泉が一番であり、日本人は温泉好きが多い。その楽しみを欺くようなニセ温泉騒動が起きている。

素人が温泉だなど思うのは、色や臭いなどであり、白骨温泉は入浴剤を入れて白濁の温泉を装った。さらにその後伊香保温泉をはじめ全国各地のニセ温泉が発覚して日本中一大騒動に発展している。水道水や井戸水を使って温泉と称して、特に悪質なのは温泉でないのに入湯税をとっていたことも問題となった。実害はないにしても温泉好きを利用してだますのは許せない行為である。

たまに温泉旅館に行くと、本館の傍らでボイラーがたかれているのをよくみかけ、本当に温泉なのか疑問をもつことがある。

源泉を引いていればよいが、それが水道水や井戸水を沸かして温泉と称するのは問題である。たまにしか行けない温泉でリフレッシュするのは本当に楽しみだが、今後はまず本当に温泉なのか確認しなければならなくなった。

広報8月号

印刷 平成16年8月15日
発行 平成16年8月15日
(毎月1回20日発行 第37巻第8号)
発行所 東京都鍍金工業組合
〒113- 東京鍍金公害防止協同組合
0034 東京都文京区湯島1-11-10
Tel 03(3814)5621 FAX03(3816)6166
発行責任者 大村 功作
編集責任者 木村 秀利
印刷 スザキ企画 Tel047(338)1222
〒272-0802 市川市柏井町2-1419-4
定 価 500 円